



神戸大学大学院 国際文化学研究所

Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University



グローバル社会のフロントランナーを育成する

2015-2016

研究科への招待

コース紹介

国際交流

充実した研究教育サポート体制

Initiation

Courses

神戸から始まる 新しい国際文化研究

神戸大学大学院国際文化学研究所は、2007年に総合人間科学研究科を改組して設立された研究科です。1992年10月創設の国際文化学部と同じ名称の大学院に改組することによって、学部から大学院までを通した教育や研究を推進する体制が整備されたことになりました。

冷戦体制の崩壊後、グローバル化の進展に伴って、人と文化のハイブリッド化がますます進んでいます。まさにグローバルに展開する社会の変化をどう捉え、その意味をどう読み解くか。現象の変化と同時にそれを捉える枠組み自体が大きく変わっています。中でも、国民国家の枠組みを前提とした思考様式・認識枠組みは、その見直しを強く求められています。それは、国家やネーションを所与とし、国民国家の学として体系化されてきた、近代以来の人文科学・社会科学の枠組みを問い直す試みと言い換えてもよいでしょう。

私たちの研究科・学部は、現代世界の変容と持続、両者の

織りなす多様な諸相を、「文化」という視点から探求することを教育・研究の課題としています。国際文化学とは、単一のディスプリンに指すものではありません。多様な文化のあり方や文化相互の関連性を共通のテーマとして、さまざまなディスプリンから学際的にアプローチしていく研究分野です。研究科を構成する15のコースに示されていますように、複眼的視点をいかに確保していくか、そのこと自体を自覚的に推進してきました。

全国の国立大学で最初の国際文化学を標榜する大学院として成立した私たちの研究科は、「文化」という視点を中心に、そしてそうした切り口の有効性をも批判的に検証しつつ、先端的な研究領域と分析手法を切り開いていくことを目指しています。門戸は開かれています。新しい知の枠組みをどのように構築していくのか。

知的好奇心あふれる若いみなさんとの協同作業を私たちは心から切望しています。



国際文化学研究所長
大月 一弘

研究科の理念と目標 Our mission and aims

国際文化学研究所は、異文化共存を見据えた文化研究の先端的領域を開発し、人類文化を把握するための新たなパラダイムを構築することをその理念としています。

- そしてそれを実現するために、以下の5つの研究目標を設けています。
- (1) 文化を指合体と捉え、異文化間の関係性を視座として文化研究を行う。
 - (2) 指合体としての文化を、衝突・融合・交渉などの異文化間の相互作用という相座から、動態的に研究する。
 - (3) グローバル化する現代世界の文化変容を多角的に研究する。
 - (4) 言語や情報に関わる先端的コミュニケーション研究の開発を行う。
 - (5) 中心/周縁、文明/未開、先進/後進などの一元的で単面的なパラダイムから、多角的で複眼的なパラダイムへのシフトを実現し、現代世界の文化動態に則した研究方法を開拓する。

アドミッション・ポリシー Admission Policy

国際文化学研究所では、高い異文化理解能力と自己なコミュニケーション能力を有し、豊かな学際的・創造的研究能力を有する人材を育成することを目標としています。上記の教育研究上の目標をふまえ、本研究所が求めるのは次のような学生です。

前期課程 Master's Program	文化を指合体として捉え、異文化間の関係性を多角的に探究することに関心を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生 ・言語情報コミュニケーションの動態を深く理解し、現代のグローバル社会の諸課題に取り組みたいと意欲を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生 ・高い専門性の上に立って学際的研究を行うことに関心を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生
後期課程 Doctoral Program	・指合体としての文化の構造と動態を究明し、文化研究の先端的な領域を主体的に開拓することに関心を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生 ・言語情報コミュニケーションの諸問題を探究し、グローバル化する現代世界を多角的に研究することに関心を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生 ・高度な専門性の上に立って領域横断的な研究を行うことに関心を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生

ディプロマ・ポリシー Diploma Policy

国際文化学研究所は、高い異文化理解能力と自己なコミュニケーション能力を有し、豊かな学際的・創造的研究能力を有する人材を育成することを目標としています。この人材育成目標、及び全てで定めた学位取得に関する4つの目標をふまえ、本研究所では、教育課程を通じて授与する学位に関して、以下に示した2つの方向に沿って当該学位を授与します。

前期課程 Master's Program	本研究所に原則として2年間在学し、修了に必要な所定の単位を修得し、修士論文の専攻に合格する 本研究所学生が、修了までに達成を目指す目標は次のとおりである。文化を指合体として捉え、異文化間の関係性を多角的に探究することができる。 ・言語情報コミュニケーションの動態を深く理解し、現代のグローバル社会の諸課題に取り組みたいと意欲が持てる。 ・高い専門性の上に立って学際的研究を行うことができる。
後期課程 Doctoral Program	本研究所に原則として3年間在学し、修了に必要な所定の単位を修得し、博士論文の専攻に合格する 本研究所学生が、修了までに達成を目指す目標は次のとおりである。文化を指合体としての文化の構造と動態を究明し、文化研究の先端的な領域を主体的に開拓することができる。 ・言語情報コミュニケーションの諸問題を探究し、グローバル化する現代世界を多角的に研究することができる。 ・高度な専門性の上に立って領域横断的な研究を行うことができる。

目次

国際文化学研究所への招待

アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー	1
研究科の構成・研究科の育成する人材	2
博士前期課程・博士後期課程	3

15の多様な専門コース

日本語	4-5
アジア・太平洋文化論	6-7
ヨーロッパ・アメリカ文化論	8-9
文化人類学	10-11
比較文明・比較文化論	12-13
国際関係・比較政治論	14-15
モダンイデオロギ	16-17
先端社会学	18-19
芸術文化論	20-21
言語コミュニケーション	22-23
感性コミュニケーション	24-25
情報コミュニケーション	26-27
外国語教育システム論	28-29
外国語教育コンテンツ論	30-31
先端コミュニケーション論	32
日本語教育推進プログラム	33
研究生制度	33

国際交流

留学案内	34-35
国際文化学研究所推進センター	36

充実した研究・教育サポート体制

研究サポート	37
就職と進学	38-39
全学の研究支援施設・学生寮・奨学金	40
研究会・研究誌の紹介	41
論文題目	42-43
教員一覧	44-45

Invitation to the Graduate School of Intercultural Studies

	46-49
--	-------

15 Specialized Courses	50-57
------------------------	-------

研究科への招待

コース紹介

国際交流

充実した研究教育サポート体制

Initiation

Courses

国際文化学研究所への招待

INVITATION TO THE GRADUATE SCHOOL OF INTERCULTURAL STUDIES

◆ 研究科の構成 世界とかわかり、世界で生きるための 15 の専門コース

専攻と領域
現代社会の文化のあり方を比較考察し、文化間の対立・紛争といった現代的な課題に取り組むには、個別地域の文化及び異文化間の相互関係を考察すると同時に、グローバル化する世界の文化の動向とそれ自身を考察する能力を培うことが不可欠です。
そのため、国際文化学研究所では、個別地域文化研究を踏まえ、異文化間の相互作用のあり方や特質を多角的に解明する「文化相関専攻」と、グローバル化による文化の現代の位相を解明する「グローバル文化専攻」の2専攻を置いています。
「文化相関専攻」は、各地域固有の文化特性や文化の変容を学際的に研究する「地域文化系領域」、異文化の接触・対立・交流の実態を多角的に探求する「異文化コミュニケーション系領域」を置き、(1) 個別地域文化の理解、(2) 異文化間の関係性・相互作用の理解、(3) 異文化

コミュニケーション能力の育成を目指します。
「グローバル文化専攻」には、グローバル化に伴う西洋近代原理の揺らぎの中にある、現代の社会的・文化的状況をトータルに研究する「現代文化システム系領域」、英語・非英語のコミュニケーション活動と多様な情報メディアの活用に関する諸問題を探究する「言語情報コミュニケーション系領域」、外国語教育に関する先進的研究と当該分野の卓越した実践者の養成を目標とする「外国語教育系領域」、さらに、前期課程では「国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) との連携の下に、連携講座「先端異文化コミュニケーション論」を置いています。そして、これらの領域を通して、(1) グローバル化による文化変容の解明と新たな公文化の構築、(2) 先進的なグローバルコミュニケーションの開発、(3) グローバル化時代の外国語教育システムの開発を目指します。

専攻	領域	コース
文化相関専攻 個別地域文化研究を踏まえ、異文化間の相互作用のあり方や特質を多角的に解明する	地域文化系 各地域固有の文化特性や文化の変容を学際的に研究する	日本 アジア・太平洋文化論 ヨーロッパ・アメリカ文化論
	異文化コミュニケーション系 異文化の接触・対立・交流の実態を多角的に探求する	文化人類学 比較文化論 国際関係・比較政治論 先端社会論 モダンイデオロギ
グローバル文化 グローバル化による文化の現代の位相を解明する	現代文化システム系 グローバル化に伴う西洋近代原理の揺らぎの中にある、現代の社会的・文化的状況をトータルに研究する	先端社会論 芸術文化論 言語コミュニケーション
	言語情報コミュニケーション系 英語・非英語のコミュニケーション活動と多様な情報メディアの活用に関する諸問題を探究する	言語コミュニケーション 異文化コミュニケーション 情報コミュニケーション 異文化コミュニケーション論
外国語教育系 外国語教育に関する先進的研究と当該分野の卓越した実践者の養成を目標とする	外国語教育系 外国語教育に関する先進的研究と当該分野の卓越した実践者の養成を目標とする	外国語教育システム論 外国語教育システム論 外国語教育システム論
	連携講座 (博士後期課程に設置)	先端異文化コミュニケーション論

◆ 研究科の育成する人材 世界へ広がるキャリアパス

博士前期課程
文化相関専攻
一専門職として
・国連、JICA 等国際機関の専門職
・日本文化の紹介・交流などを企画する各種団体職員、公務員
・博物館、美術館の文化プランナー
・高度な専門知識を備えた中学校・高等学校教員 (英語系)
・地方自治体・企業における文化交流事業の企画立案者
・外資系・合併企業の研修担当者
・文化活動、異文化理解を先導する地域 NPO リーダー
・日本語教師
・通訳、翻訳家
・言語系・IT 系企業研究所職員

グローバル文化専攻
一専門職として
・音楽、美術等の芸術に通じた文化政策専門職員、アートマネージャー
・ジェンダー・公共性や、変容する現代文化の諸問題に取り組むジャーナリスト、公務員
・高度な専門知識を備えた中学校・高等学校教員 (英語系)
・語学教育系企業・社員、教員
・言語教育教材等の編集者
・留学生セクター・研究員、専門職員、アドバイザー
・日本語教師
・通訳、翻訳家
・言語系・IT 系企業研究所職員

博士後期課程
世界の「国際文化研究」を推進する先進的研究者
一専門職として
・国際機関 / 研究所等研究員
・国立 / 企業系研究所等専門職員
・大学、短期大学、高等専門学校教員

取得できる学位
博士前期課程 修士 (学術)
博士後期課程 修士 (学術)

取得できる資格 (博士前期課程)
中学校教諭専修免許状 (英語)
高等学校教諭専修免許状 (英語)
学芸員資格 (* 博士後期課程も可)

取得できる資格 (博士後期課程)
中学校教諭専修免許状 (英語)
高等学校教諭専修免許状 (英語)
学芸員資格 (* 博士後期課程も可)

一実践対応力をもったビジネスプロとして
・外資系・合併企業社員
・国際系企業社員
・日本企業の海外進出要員

一実践対応力をもったビジネスプロとして
・ソフトウェア技術者
・システムエンジニア

◆ 博士前期課程 一歩に応じた2つの「学び」の形

国際社会の「キーマン」を育てる「キャリアアップ型」、時代をリードする新進研究者を育てる「研究者養成型」
一入口から出口まで、目的に応じた多様なスタイル

	キャリアアップ型	研究者養成型
入試 (一般人入試、社会人特別入試及び外国籍生特別入試)	1. 基礎科目 外国語、日本古典文、情報、日本語 (外国籍生特別入試のみ) から選択。ただしコースごとに選択可能な科目を定めているので、詳細は募集要項を参照のこと。 2. 専門科目 3. 口述試験	● 指導教員による実地・実人指導 (フィールドワーク) ● 研究者としての基礎力を養う「高度専門演習」を中心に研修 ● 後期課程の「特別演習」履修も可能 ● 修士論文、または複数論文を組み合わせた「修士フォリオ」の提出
カリキュラム	● キャリアアップのための高度な外国語能力・情報処理能力・プレゼンテーション能力を育成する演習科目 ● 一方通行でないラクラクタイプな少人数制「特別演習」を中心に研修 ● 所定単位の修得と修了レポートの提出で修士号が取得可能	● 指導教員による実地・実人指導 (フィールドワーク) ● 研究者としての基礎力を養う「高度専門演習」を中心に研修 ● 後期課程の「特別演習」履修も可能 ● 修士論文、または複数論文を組み合わせた「修士フォリオ」の提出
進路	修士号を取得し、専門職として国際的に活躍する	後期課程入試を経て、後期課程に入学を希望する学生に対応。研究者や高度専門職としての道を進む

2つの教育プログラム

博士前期課程にはキャリアアップ型プログラムと研究者養成型プログラムがあります。一般入試及び社会人特別入試志願者については、入学希望提出期まで、どちらかひとつを選択します。外国籍生特別入試志願者については、入学時に、いずれかを選択します。

キャリアアップ型プログラム

前期課程修了後、就職を希望する学生に対応した教育プログラムです。幅広い専門的知識と実践的な応用能力の修得によって、キャリアの高度化を目指します。
特別演習を中心とした所定単位の修得と、キャリアデザインに即した修了レポートの提出によって、修士号が取得できます。

研究者養成型プログラム

前期課程修了後、後期課程入試を経て、後期課程への進学を希望する学生に対応した教育プログラムです。
研究意欲や高度専門職の養成を目指したカリキュラムが提供されています。高度専門職を中心とした所定単位の修得と修士論文 (または修士フォリオ) の提出が要件となります。

博士後期課程 一自立した研究者を育てる「学び」のスタイル

専門分野を深く掘る「コースワーク型」
一3年間で修士号を取得するための多様な柔軟なサポート

研究テーマ	コースワーク型
研究テーマ	博士の研究分野に即したテーマ
カリキュラム	個人研究
指導体制	指導教員が中心となりコース全教員がサポート
博士取得のプロセス	< 1年次 > コースの共同演習で発表発表、学術論文の投稿、博士論文の提出 < 2年次 > 学術論文の投稿、学術発表、博士論文の提出 < 3年次 > 毎月1回、部分草稿をコースの共同演習に提出、全教員から指導とサポートを受ける。博士論文の提出
期待される成果	個人の自由な発想と独創性を最大限に生かした学術的研究成果

文化相関・地域文化系 日本学コース



日本学コースでは、世界の多様な文化の中で日本文化を相対化しつつ、日本という地域における人間の営みを、文化の面から明らかにする。文学・芸術・宗教・思想などの文化や社会に関する古代から現代にわたるさまざまな広範な諸問題に取り組む。共に研究し学ぶことによって学びます。

日本の文化や社会を深く理解するためには、古文書読解や資料調査を求められることも多いですが、そのための専門的な能力を高める機会も提供しています。
また、留学生には、通俗的な日本語に感嘆されることなく学問的手続きを踏んで日本の文化や社会について語られるようになるための専門的訓練を行います。高度の専門的知識と学問的能力をもった人材を輩出することを目指しています。

所属教員の紹介

稲吉 史明 准教授 日本文化系領域特別演習履修ほか 日本経済、経済学。経済学の方法をベースとして、国際的な歴史的背景から日本経済を研究しています。	野村 伸幸 准教授 日本語学特別演習履修ほか 歴史学。1900年代から40年代にかけてのラジオ文化について、歴史学や文学的アプローチから研究しています。
長 志隆 教授 日本文化系領域特別演習履修ほか 東洋史・日本史。最近の日本は戦争の記憶論、東洋史下層下の文化研究	寺内 清子 教授 日本文化系領域特別演習履修ほか 日本民俗学・民俗学。日本民俗学を、民俗学を用いて表現する音楽や舞踏の文化論、アジアの様々な文化の文化論の中で動的にとらえます。
水下 真一 教授 日本文化系領域特別演習履修ほか (平成28年3月まで) 音楽学。音楽学が音楽の歴史を研究対象とし、その変遷・展開の歴史を音楽、文化、社会、時代意識などの観点から探ります。	

JAPANOLGY

所属学生からのメッセージ

朴 瑠璃さん
(博士後期課程2年)
神戸大学大学院国際文化学研究所に入学してからは、研究テーマ「日本文化の歴史と現代」について研究しています。研究テーマは「言語学」です。言語学は、言語の構造や機能について研究し、その歴史や変遷を明らかにすることです。私は、言語学を通じて、人間のコミュニケーションの歴史や変遷を明らかにすることを目指しています。研究テーマは「言語学」です。言語学は、言語の構造や機能について研究し、その歴史や変遷を明らかにすることです。私は、言語学を通じて、人間のコミュニケーションの歴史や変遷を明らかにすることを目指しています。

洗井 雅さん
(博士後期課程2年)
私は、言語学を通じて、人間のコミュニケーションの歴史や変遷を明らかにすることを目指しています。研究テーマは「言語学」です。言語学は、言語の構造や機能について研究し、その歴史や変遷を明らかにすることです。私は、言語学を通じて、人間のコミュニケーションの歴史や変遷を明らかにすることを目指しています。

沼田 彩華さん
(博士後期課程2年)
私は、言語学を通じて、人間のコミュニケーションの歴史や変遷を明らかにすることを目指しています。研究テーマは「言語学」です。言語学は、言語の構造や機能について研究し、その歴史や変遷を明らかにすることです。私は、言語学を通じて、人間のコミュニケーションの歴史や変遷を明らかにすることを目指しています。

廣田 吉崇さん
(博士後期課程2年)
私は、言語学を通じて、人間のコミュニケーションの歴史や変遷を明らかにすることを目指しています。研究テーマは「言語学」です。言語学は、言語の構造や機能について研究し、その歴史や変遷を明らかにすることです。私は、言語学を通じて、人間のコミュニケーションの歴史や変遷を明らかにすることを目指しています。

所属学生からのメッセージ

沼田 彩華さん
(博士後期課程2年)
私は、言語学を通じて、人間のコミュニケーションの歴史や変遷を明らかにすることを目指しています。研究テーマは「言語学」です。言語学は、言語の構造や機能について研究し、その歴史や変遷を明らかにすることです。私は、言語学を通じて、人間のコミュニケーションの歴史や変遷を明らかにすることを目指しています。

廣田 吉崇さん
(博士後期課程2年)
私は、言語学を通じて、人間のコミュニケーションの歴史や変遷を明らかにすることを目指しています。研究テーマは「言語学」です。言語学は、言語の構造や機能について研究し、その歴史や変遷を明らかにすることです。私は、言語学を通じて、人間のコミュニケーションの歴史や変遷を明らかにすることを目指しています。

Q&A

文学研究科の教育・研究内容の詳しいことは?
国際的な視野から教育・研究を行っています。また、文学研究科では扱われることの少ない学際的、横断的研究や研究テーマを積極的に取り扱っています。

仕事をもちながら教育課程を修了することはできますか?
これまで在学中に産休・育休をとり、5、6学期を休学するなどの対応を取ってこられた。事前にコース教員と相談されることをお勧めします。なお、博士前期課程の学生の場合、長期休学制度を申請すれば、2年分の学費を4年分まで3年間で支払う場合があります。

アジア・太平洋文化論コース



現代のアジア・太平洋地域は、経済や国際交流等の面で激しい変動を経験しながら急速に発展しています。その意味では今まさに地球上でも最も急速に地域の一つであるとも言えるわけですが、それらの表面的な発展の流れを追うのみではこの地域の持つ特質は理解できません。東アジアをはじめ、東南アジアや太平洋地域にせよ、各地域が古くから保持してきた複雑多岐にわたる多様な伝統と文化のあり、その伝統がグローバル化の波をかきつつ変容してきた結果が、現在の姿なのです。したがって、この地域の特質を深く理解しようと思えば、社会構造、宗教、歴史、経済状況等々の諸方面から掘り下げた専門的な研究が不可欠となります。本コースでは、それらの専門的な研究視点、研究方法を多様な教授陣が様々な専門領域の授業で伝授し、指導する体制を整えています。

所属教員の紹介

- 伊藤 友美 准教授 東南アジア文化論特許講座ほか**
東南アジア地域文化、タイ研究、仏教と女性研究などの分野を主に研究しています。
- 長村 康志 教授 東南アジア宗教学特許講座ほか**
インドネシア歴史、華僑人研究、水運途地などの分野を主に研究しています。
- 王 阿 教授 中国社会科学特許講座ほか**
近現代中国思想史、中国経済史などの分野を主に研究しています。
- 田村 幸子 教授 オセアニア社会文化論特許講座ほか**
オセアニア地域の文化人類学などの分野を主に研究しています。



6 | 神戸大学国際文化学研究所

所属学生からのメッセージ

片山 信英さん

(修士前期課程2年 研究学術型プログラム)
大森国際大学(現・大森大学)外国語学部インドネシア語科卒業、神戸大学大学院国際文化研究科修士前期課程修了。研究テーマは、「コミュニティ型学習センターを基にしたインドネシアのアンチユース教育の発展について」。



私は神戸市役所に勤務する社会人大学院生です。仕事を終えた後、夜間の授業に通っています。修士課程最後の2年で修士取得もままならないのでは心配していましたが、夏季学期に開催される集中講座や長期研修制度を利用することによって、3年間で必要な単位を取得し、修士論文を作成するという計画を描くことが可能となりました。

仕事との両立と定期的な面接の多い社会人にとって学習環境は重要な要素です。授業も開講している上、集中講座があること、長期研修制度があることなど、本コースは社会人にも門が開かれています。長期研修制度をはじめ、職業も社会人や育児・介護等の事情を有する大学院生は、授業料の負担ほとんど増やせずに2年間の在学期間を最大4年間で延長許可してもらえる制度です。入学して驚いたことは、まず、院生一人ひとりに学習計画が与えられること、そして、アジアからの国際的な留学生が多いことです。様々なバックグラウンドをもった学生と授業でのディスカッションだけでなく、公私にわたる交流を通して、これまでの学びが新たな学びへとつながり、日々大きな刺激を受けています。

私の時間割(平成26年度 主要な履修科目)

アジア・太平洋文化論
自らの研究テーマまたは研究関心の範囲について発案し、テーマ検索、研究手法についてディスカッションを行う中、実行研究を批判的に評価、研究の最終結果を把握すること、研究に関する課題を明確に持つことの重要性を学ぶ予定があります。

異文化理解講座

ジェンズ・グループの「文化の衝突—20世紀の民族誌、文学、芸術」及び「ジェンズ—20世紀の民族誌と人類学」の内容についてディスカッションを行います。外国人留学生3人グループを編成し体験し、発表内容の検討と卒業論文の作成の相互刺激が深まるのが醍醐味です。

感性コミュニケーション講座
人間の心の奥底に潜る文化や価値観を中心に人が行動する理由を探る研究手法について学びます。一見、自分自身の研究テーマとは遠いと思われそうですが、[行動場面]に現れる「振りの表現」について、インドネシアと日本との比較に関して調べたことを発表する機会を頂き、その過程で新たな気づきを得ることができました。

Q&A

留学生や社会人入生の学生もいますか?
本コースでは日本とアジアの学生の方が多いですが多数在学しており、上記の通り、社会人入生・長期研修生の院生もいます。



Graduate School of Intercultural Studies | 7

ヨーロッパ・アメリカ文化論コース



ヨーロッパ・アメリカ文化論コースでは、近代以降、世界の政治・経済・文化などで中心的役割を果たしてきたヨーロッパとアメリカの社会と文化について、多様な角度から総合的に教育・研究を行います。これらの地域で発展した文化は世界へと広まりましたが、現在、批判的に再検討されていることは周知の通りです。それに加えて、最近では、欧米にありながら近代成立の過程で困難に陥った社会と文化に関する研究も進展しています。このコースでは、以上のような見解を踏まえ、現代の我々の生活と意識に深く根付いているように見える欧米的思考や価値観を再検討し、その21世紀における意義を探っていきます。歴史・言語・宗教・思想・文学・芸術・社会制度など、幅広い分野にわたって具体的な考察を積み重ねること、また知られざるヨーロッパやアメリカの深奥に迫りたいと思います。

所属教員の紹介

- 長島 隆子 教授 スラブ社会文化論特許講座ほか**
ロシア・東欧の近代史を専門としています。とくに、前近代に多民族・多宗教の社会が共存した当地方史の歴史について、社会的文化に付随して「ソシアリズム」「民衆」の果たした役割について研究しています。
- 野村 裕子 教授 イギリス市民文化論特許講座ほか**
イギリスのイギリス化、社会と文学を中心に研究しています。文学では Dickens やキスグッド、ヤングなどの近代小説の翻訳研究が、また最近では、社会制度、王宮、芸術、教育、ジェンダー、組織と組織間のやり取りの関心から文化・社会を多角的に理解しています。
- 井上 弘貴 准教授 アメリカ多民族形成論特許講座ほか**
民族学を専門として、19世紀から20世紀のアメリカ合衆国における人種構成とテクノロジーの歴史を中心に、アメリカ研究をしています。
- 坂本 千代 教授 フランス文化論特許講座ほか**
現在はフランス文化、特にフランスの女性作家とその作品に研究があります。19世紀の女性作家 ジュリエット・オノーレ・ド・ラモイ、ロマン・ド・ラランド、ルイ・ド・ラランドについて研究しています。授業は19世紀中葉のフランス・ルネサンス期の文学です。小説の異文化による翻訳の面白さについての特徴を比較するに際して関心があります。
- 野田 隆二 教授 イギリス宗教文化論特許講座ほか**
イギリスとアメリカの文化・文学と宗教の関わりについて研究しています。宗教が文化形成にどのような影響を及ぼしているか、個人と文化のアイデンティティ(構成)形成と宗教との関わりが興味です。

8 | 神戸大学国際文化学研究所

所属学生からのメッセージ

王 美力さん

(修士前期課程2年・キャリアアッププログラム)
中央民族大学(中国)漢語学院国際文化専攻卒業、神戸大学国際文化研究科修士前期課程修了。研究テーマは「『道化者』から見るカオス・インディペンデント」。

大学院では主にカオス文化の論文を中心に研究しています。ここで、人は「道化者」についてどういうイメージを持っているのでしょうか?おもしろく、面白い、悲しい、怖いというイメージを持っているのではないのでしょうか。つまりそれは、道化者が「笑」のような正統的な個性を持っているということ。カオス文化に登場する「道化者」を持つ人物にも、同じく「そうして」「二面性」があると思え、それをきっかけにカオスの多量なインディペンデント作品の中にもう一度戻れることに興味をもちました。ヨーロッパ、アメリカ文化論コースでは、専門分野の異なる幅広い学生と交流ができます。私は留学生として入学を選択したことにより、大学院で先生方との指導のもとで様々な知識を得ることができ、充実した日々を送っています。



秋田 真吾さん

(修士前期課程3年)
中央民族大学(中国)漢語学院国際文化専攻卒業、神戸大学国際文化研究科修士前期課程修了。研究テーマは「アメリカインディペンデント・ドリーム」。

民主主義とは正義なき多数決のことなのか?正義とは何か?など疑問に思っています。アメリカの社会は、中一から中高生までが同じ目標に向かって努力を積み重ねてきました。また政治思想という分野を専攻して、文学・文化・宗教という観点から学ばせてもらいました。アメリカ合衆国のみならずアメリカ、アメリカ合衆国を学んでみたことはないので、このことは、他の専門分野にあるとは異なるもので、さまざまな専門分野を持つ先生方による集団指導を通して、多様な視点から学べるのが魅力です。現時点でも国際的にも、より深い知識を身に付けたいことが、このコースの魅力であると思います。

修下学生からのメッセージ

矢野 隼子さん

(2012年度修士前期課程修了)
同志社大学文学部文学専攻卒業、神戸大学国際文化研究科修士前期課程修了。現在は、東京藝術大学(筑波大・カーブ)・専攻 勤務。

19世紀イギリスの作家、プロットについて、都市空間についての知識を深めながら、彼らの創作物を基礎として作品の考察を行いました。本研究科の魅力は、多様な専門分野を持つ学生との交流と研究を進められることです。宗教、政治、思想等、様々な切り口から話を広げることによって自分の研究を多角的・多面的に捉えながら、可能性をだてていくことができます。またコースを履修して履修可能な授業では、専門分野異なる学生との協働を学ぶことが出来るように、各自の研究と結びつけた新たな可能性の発見につながることもありません。

多様な研究テーマをもつ学生が集まることも研究科の大きな魅力です。授業や学生研究会での研究発表をはじめとした意見交換の場にも関わらず、新しい関心事を見つけ出す機会の場にもなっています。本コースの取組で学生生活に豊満さ(多)の視野を届けられたことは、修士の後でも自信になっています。

上野 龍平さん

(2012年度修士前期課程修了)
同志社大学文学部文学専攻卒業、神戸大学国際文化研究科修士前期課程修了。現在は、エクスプレス・インターナショナル 勤務。

私は大学時代に経済学部に所属していたのですが、その時アメリカの文化や歴史に興味を持ちアメリカが好きになりました。現在の大田になったか深く学びたい思い、神戸大学国際文化研究科修士前期課程に進学してアメリカ文化を学びました。一年生の時から「アジア・アメリカ文化論」の授業を受けて、自分自身で研究することをきっかけに履修後もさらにスキルまで授業で教えていただきました。修士学取取得後は企業に就職しました。大学院では少人数制による講座や授業中の授業や先生方によるフィードバックは卒業後も必要不可欠な存在として残りました。また本学での多様な学生生活も活用して、研究対象としたアメリカの歴史や文化を知ることは研究にも役立つと考えました。修士生活が充実したことは大変満足しています。短い期間でも神戸大学国際文化研究科ヨーロッパ・アメリカ文化論コースで充実した2年を過ごすことができました。

Q&A

社会人ですが、仕事をしながらの入学は可能でしょうか?
規定科目で修了を目指す。博士前期課程2年(うち1年1単位においては週1〜2回以上の出席が必要で、「長期履修制」を利用すれば最高4年まで修了年限を伸ばす事が出来ます。最終年度は専攻科の専攻科目が履修可能です。また、修士後期課程の場合は、指導教員との相談により柔軟な受講が可能です。

専門の先生がいなかったり地域や領域のことを研究テーマにすることはできますか?
教員が少なく、また幅広い地域や領域をカバーしていますが、かなり柔軟に対応することができます。最終年度については、いずれかの教員と連絡を取って、具体的なテーマについてご相談ください。

外国語の知識はどの程度必要ですか?
英語の文献が読める程度の知識は必要です。どこかの地域に関することを専門的に研究する場合は、当該地域の言語(フランス語、ドイツ語、ロシア語、等々)の知識を持っている必要があります。前期(修士)課程の「キャリアアッププログラム」では、それほどの外国語力がなくても大丈夫です。

Graduate School of Intercultural Studies | 9

文化相関・異文化コミュニケーション系 国際関係・比較政治論コース



本コースでは、社会科学をベースに世界各地の政治現象を捉えることを目指しています。たとえば、国際社会の変容を踏まえながら、国内の政治と社会の関係が変化する様態を浮き彫りにする高度な研究が、院生によって進められています。また、従来の政治学や国際関係論で十分に取り上げられなかった分野横断的なテーマについて、積極的に現地調査を行いながら取り組む院生もいます。5名の教員は、国際政治学の主要なアプローチを全てカバーするバランス良い構成となっており、院生による新しい研究意欲に対応しては体制化しています。

特筆し得る点として、論文作成の基本に関して新年度毎にオリエンテーションを行っています。また論文作成指導は、前期課程と後期課程の院生が全員、毎週出席するグループ演習を実施しています。この場の知的力は、ぜひ体験して頂きたいものです。教員と院生の全員が協力して徹底した検討を加え、オープンな場で観合っています。この過程で、参加者には、向上心、自発性や楽観的な作法が身に付きます。また国際政治学の基礎から応用までを修得し、また社会に出ても通用する思考力や応用力が修得できます。

本コースでは、院生がどんな研究テーマを選択しても、新しい多文化共生のあり方を大切にすることを前提に付き添っていきます。教育政策、移民問題、民主主義、ナショナリズムの動向、福祉制度などの政治と文化が交錯するテーマに関して、研究が積み上げられることも本コースの特徴です。また前期課程では歴史学を修めた方が、後期課程で政治学を身に付けたい、といった学際的な院生の志向に対応してきました。キャリアアップの方向にも、研究者志望の方にも、きっと自分を向上させるきっかけを見つめてもらえるはずと信じています。

わたしたちと共に、新しい国際社会のあり方を見出すようではありませんか？

履修実績 (前期課程) 関西経済連合会、大阪府、神戸大学職員、京都大学職員、ネスレ・アジアパシフィック、アパレル、化粧品、投資会社、メーカー、光通信、ソフトバンク、神戸商船(後期課程) アジア経済研究所、立命館大学国際関係学部、日本経済研究社、安永・保衛情報提供センター

在籍学生数 (前期課程) 1年6名(内キャリアアップ型2名) 2年3名(内キャリアアップ型1名)(後期課程) 2年3名、3年4名

論文テーマ例 アイルランドにおける輸出主導型経済についての考察、米連邦下院議員の政策行動の分析、ネオ・ロビンソン・クルソーの理論研究に関する考察、経済的再編の試み、[7人のための教育]に向けて「ランゲリアンGO」[BRAC]による高等教育プログラム、スウェーデンにおける移民政策の歴史的背景(1950年代以降のワークフェア)後援による雇止めと雇戻、その2つのケースに関する国際的考察

所属教員の紹介

堤洋 一哉 教授 国際政治学・政治学専攻准教授
国際政治の発展と課題、民主主義と競争的、現代フランス政治・外交などの分野を主に研究しています。

野村 賢一 教授 比較政治学・政治学専攻准教授
ヨーロッパの政治制度、政治制度の再編、現代フランス政治、政治学研究などの分野を主に研究しています。

中村 賢 准教授 比較政治学・政治学専攻准教授
中央における外交の可能性、中央民主主義と多文化共生、イスラム世界における国家と社会などの分野を主に研究しています。

安岡 正晴 准教授 比較政治学・政治学専攻准教授
比較政治学、現代フランス政治(特に連邦制と市場)、などの分野を主に研究しています。

近藤 正基 准教授 多文化共生学専攻准教授
比較政治学、比較政治、現代フランス政治などの分野を主に研究しています。

グローバル文化専攻・現代文化システム系 モダニティ論コース



国民国家という政治原理であり市場という経済原理であり、あるいは小説という文学形式であり遠近法という絵画技法であり、西歐近代に由来するこれらの社会的・文化的な装置は、現代世界の基本的な枠組みをかたちづくってきました。ところが現在、この西歐近代の原理(モダニティ)は、グローバル化の進展とともに根拠から揺らいでいます。こうしたなかで求められているのは、あらためて「モダニティ」の意味を問い直し、激動する世界のゆくえを的確に読み解くことだといえるでしょう。本コースでは、近現代の社会思想・経済思想・政治思想・文化思想・表象文化を丁寧に分析するところをつづいて、アクチュアルな課題に応える足量の強い思考力を養成することをめざしています。

履修実績 (前期課程) 西宮市役所、神戸大学職員、山崎山崎子、英知新聞社(記者)、共同通信社(記者)、EY、かんこうサービス、オースター株式会社、金商會中学校、高等学校(教員) 他

在籍学生数 (前期課程) 1年16名(内キャリアアップ型2名) 2年5名(内キャリアアップ型2名)(後期課程) 1年0名、2年16名、3年4名

論文テーマ例 (前期課程) ミシェル・アゾーとエルキュール・ヌリマン、ビクター・ペーガーの「日常」現象と宗教、アルフレッド・シュッツにおける「レヴィナス」現象、聖徳太子における「多文化共生」の思想的なものであるとして、H. アーモンに対する最良の概念について、理系社会学の発展(「ニュー・シヤウツ」エッセイ)など

(後期課程) エルスト・ユンガー、技術、ニクラス・ルマン、社会システム論、ハーバート・スペンサー、日本の近代化、D.H. ロレンス、エロティックなど。

所属教員の紹介

石田 圭子 准教授 文化思想学専攻准教授
美学・芸術思想、近代以降の美術と政治の関係、芸術における権威とコミュニケーションなどについて研究しています。

田中 良彦 教授 現代文化思想学専攻准教授
社会思想、アルフレッド・シュッツ、ドゥルーズとデリーのフランス現象学を中心に、今日における政治・経済・文化の学際的分野を専攻しています。著書:『アルフレッド・シュッツの現象学』(平凡社)など。

上野 勝利 教授 現代文化思想学専攻准教授
政治思想・社会思想、メルカト・アルフレッド・シュッツの現象学を中心に、今日における政治・経済・文化の学際的分野を専攻しています。著書:『現象学のフロンティア』(岩波書店)など。

藤 茂 教授 現代文化思想学専攻准教授
社会思想、政治思想、シュッツ、ドゥルーズ、デリーの現象学に関する思想研究を専攻しています。著書:『シュッツにおける人間の科学』(木村書店)など。

松浦 理恵 教授 現代文化思想学専攻准教授
イギリス文学・思想、18世紀から19世紀のイギリス文学・思想を中心に、現代の自覚的・批判的思想について現代に活かせる興味を専攻しています。著書:『イギリスのロマンティズム』(早稲田大学)など。

INTERNATIONAL RELATIONS AND COMPARATIVE POLITICS

所属学生からのメッセージ

郭 嶺さん (博士後期課程修了)
2014年度前期課程修了
中国語・中国語学専攻准教授
私は「台湾独立問題」を研究テーマとして、中国語学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。先行研究は、台湾問題の政治的経緯について研究しています。先行研究は、台湾問題の政治的経緯について研究しています。先行研究は、台湾問題の政治的経緯について研究しています。

佐藤 真輔さん (博士後期課程修了)
2014年度前期課程修了
国際政治学専攻准教授
私は現在、欧州統合が進展する中で、そのようにEU・国家・地方自治体によって移民統合政策に関するガバナンスが行われているのの研究をしています。

博士前期課程で、移民管理政策を専攻して、政治学専攻の国際政治学専攻に在籍しています。博士前期課程で、移民管理政策を専攻して、政治学専攻の国際政治学専攻に在籍しています。博士前期課程で、移民管理政策を専攻して、政治学専攻の国際政治学専攻に在籍しています。

本コースでは、国際関係に関心を持つ学生がグローバルな視点から研究を進め、また知識豊富な先生が親切丁寧な指導で研究を指導して下さいます。私は留学生として、当初は英語や文化などの違いにより、日本の環境に馴染めなかったことが多くありました。しかし、先生や先輩のサポートのおかげで、徐々に環境に馴染んでいき、現在は研究も進んでいます。また、先生や先輩のサポートのおかげで、徐々に環境に馴染んでいき、現在は研究も進んでいます。

私の所属するキャリアアッププログラムは、就職を希望する学生のために、幅広い専門的知識と実践的応用能力の両方に重点を置いており、キャリアアップを目指す学生にとって、自分の研究分野に関する授業を通して、ITスキルや統計・計量手法といったソフトウェアスキルを効率的に習得することをサポートしています。

一言でいえば、本コースは知識を深め、人間関係を築き、研究を進めたいという学生にとって、最適な環境だと感じています。

修了学生からのメッセージ

岡田 敦生さん (博士前期課程修了)
2010年度前期課程修了
国際政治学専攻准教授
私は現在、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。博士前期課程で、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。博士前期課程で、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。

石黒 大悟さん (博士前期課程修了)
2010年度前期課程修了
国際政治学専攻准教授
私は現在、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。博士前期課程で、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。博士前期課程で、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。

本コースでは、国際関係に関心を持つ学生がグローバルな視点から研究を進め、また知識豊富な先生が親切丁寧な指導で研究を指導して下さいます。私は留学生として、当初は英語や文化などの違いにより、日本の環境に馴染めなかったことが多くありました。しかし、先生や先輩のサポートのおかげで、徐々に環境に馴染んでいき、現在は研究も進んでいます。

私の所属するキャリアアッププログラムは、就職を希望する学生のために、幅広い専門的知識と実践的応用能力の両方に重点を置いており、キャリアアップを目指す学生にとって、自分の研究分野に関する授業を通して、ITスキルや統計・計量手法といったソフトウェアスキルを効率的に習得することをサポートしています。

一言でいえば、本コースは知識を深め、人間関係を築き、研究を進めたいという学生にとって、最適な環境だと感じています。

Q&A

学部では政治学や国際関係学を専攻しては行けないのですが、大丈夫でしょうか?

必ずしも学部で専攻している必要はありませんが、研究をより進めるためには、学部で専攻することをお勧めします。また、学部で専攻することをお勧めします。また、学部で専攻することをお勧めします。

MODERNITY STUDIES

所属学生からのメッセージ

吉峯 旬作さん (博士前期課程修了)
2014年度前期課程修了
国際政治学専攻准教授
私は現在、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。博士前期課程で、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。博士前期課程で、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。

中村 菜莉子さん (博士前期課程修了)
2014年度前期課程修了
国際政治学専攻准教授
私は現在、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。博士前期課程で、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。博士前期課程で、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。

本コースでは、国際関係に関心を持つ学生がグローバルな視点から研究を進め、また知識豊富な先生が親切丁寧な指導で研究を指導して下さいます。私は留学生として、当初は英語や文化などの違いにより、日本の環境に馴染めなかったことが多くありました。しかし、先生や先輩のサポートのおかげで、徐々に環境に馴染んでいき、現在は研究も進んでいます。

私の所属するキャリアアッププログラムは、就職を希望する学生のために、幅広い専門的知識と実践的応用能力の両方に重点を置いており、キャリアアップを目指す学生にとって、自分の研究分野に関する授業を通して、ITスキルや統計・計量手法といったソフトウェアスキルを効率的に習得することをサポートしています。

一言でいえば、本コースは知識を深め、人間関係を築き、研究を進めたいという学生にとって、最適な環境だと感じています。

修了学生からのメッセージ

海野 精南さん (博士前期課程修了)
2009年度前期課程修了
国際政治学専攻准教授
私は現在、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。博士前期課程で、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。博士前期課程で、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。

川本 健二さん (博士前期課程修了)
2014年度前期課程修了
国際政治学専攻准教授
私は現在、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。博士前期課程で、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。博士前期課程で、国際政治学専攻の国際関係学専攻に在籍しています。

本コースでは、国際関係に関心を持つ学生がグローバルな視点から研究を進め、また知識豊富な先生が親切丁寧な指導で研究を指導して下さいます。私は留学生として、当初は英語や文化などの違いにより、日本の環境に馴染めなかったことが多くありました。しかし、先生や先輩のサポートのおかげで、徐々に環境に馴染んでいき、現在は研究も進んでいます。

私の所属するキャリアアッププログラムは、就職を希望する学生のために、幅広い専門的知識と実践的応用能力の両方に重点を置いており、キャリアアップを目指す学生にとって、自分の研究分野に関する授業を通して、ITスキルや統計・計量手法といったソフトウェアスキルを効率的に習得することをサポートしています。

一言でいえば、本コースは知識を深め、人間関係を築き、研究を進めたいという学生にとって、最適な環境だと感じています。

Q&A

研究テーマを絞り込むのはよく、広く「モダニティ」全般について学ぶことは可能でしょうか?

可能です。むしろ近現代の思想的課題について深く学ぶことが、モダニティ論の学びにもなります。とりわけ前期課程のキャリアアッププログラムは、就職を希望する学生のために、幅広い専門的知識と実践的応用能力の両方に重点を置いており、キャリアアップを目指す学生にとって、自分の研究分野に関する授業を通して、ITスキルや統計・計量手法といったソフトウェアスキルを効率的に習得することをサポートしています。

留学案内

STUDY-ABROAD INFORMATION



海外の大学と交換留学協定を結んでいます。
国際文化学研究所は海外の大学と協定を結び、学生の交換を行っています。協定による留学は、私費留学とは異なり、以下のようなメリットがあります。

- 授業料・留学先大学の授業料が免除されます（ただし、神戸大学に規定の授業料を支払わなければならない場合があります）。
- 単位互換：留学で取得した授業の単位が所定の手続きを経て、本研究科の単位として認定されます。
- 修業年限：留学中も神戸大学に在籍中と見なされるので、前期課程の場合は1年間（または半年）の留学期間を含めて2年で、後期課程の場合は3年で修了することができます。

(1)の留学先の授業料免除は、当該国の大学制度や物価によりさまざまです。大きなメリットになる場合とない場合がありますが、一般に欧米の大学は留学生から高額授業料を徴収しており、授業料が免除されることは大きなメリットといえます。(2)及び(3)は協定による留学ならではの利点です。奨学金は現在のところ日本学生支援機構・環太平洋地域限定のHJMAP、さらに神戸大学独自の奨励費と滞在費の一部を補助する奨学金の3種類があります。

派遣学生の選考は、次の4点を基準に国際交流委員会が筆記試験及び面接を行っています。(1)語学力 (2)応募動機 (3)人柄(外国、異文化での長期生活に耐えられるか) (4)専門性(留学計画が明確であるか)。なお、英語圏に留学する場合は要求されているTOEFL又はIELTSのスコアをクリアしなければなりません。

DDプログラムとは

ダブルディグリー・プログラム(DDプログラム)は、本研究科に在学中の大学院生が留学先研究科(現在のところ浙江大學とルーヴレン大学、ナポリ東洋大学)に最低1年間留学し、所定の単位を修得して修士論文を提出することによって、最長2年間で修士の学位を本研究科及び留学先研究科において取得できるプログラムです。それぞれの研究科で取得した単位の一部は互換され、カリキュラムも連携しています。さらに授業料等についても、本研究科の学生は神戸大学に支払うだけで、留学先研究科では免除されます。



研究科協定校一覧		
ロンドン(SOAS)		全学協定
バーミンガム	イギリス	
マンチェスター		
テネシー		
ピッツバーグ		全学協定
ワシントン		全学協定
ユタ州立	アメリカ	
メリーランド		
ニューメキシコ州(ラスアラモス)		
ヒューロン(ユナイテッド)		
オタワ	カナダ	全学協定
ハンコック		
ヘルリン自由	ドイツ	
ライプツィヒ		
グラーツ	オーストリア	全学協定
ライデン	オランダ	全学協定
ルーヴェン	ベルギー	DDプログラムあり
サンライ		
クルーレン第3		
レンズ第1		
パリ第2		全学協定
パリ第7	フランス	全学協定
パリ第10		全学協定
リール第3		
ポーニャ(フォルリ)		
ヴェネツィア	イタリア	全学協定
ナポリ東洋		DDプログラムあり
バルトロ自治	スペイン	
カルス	チェコ	全学協定
ワルシャワ		
ヤグウォ	ポーランド	全学協定
ソフィア	ブルガリア	全学協定
モスクワ教育	ロシア	
西オーストラリア		全学協定
クイーンズランド	オーストラリア	全学協定
カーティン		
武漢		全学協定
上海交通		全学協定
清華		全学協定
華東師範		
中国人民	中国	
浙江		DDプログラムあり
北京外国語		
香港		
北京師範		
中央民族		
国立台湾		全学協定
国立政治		
国立ソウル		全学協定
国立釜山	大韓民国	
ベトナム国家(ホーチミン)	ベトナム	
アテネオ・デ・マニラ	フィリピン	
タマサート	タイ	
ガジヤ・マダ	インドネシア	

国際文化学研究推進センター

RESEARCH CENTER FOR PROMOTING INTERCULTURAL STUDIES



本センターは、これまであった異文化研究交流センターとメディア文化研究センターを統合して2014年に設立されたものです。両センターのこれまでの成果と経験を活かして、時代の要請である地域連携、国際交流及び人文科学・社会科学・自然科学が融合した研究の促進に一層迅速に対応することが、その統合の目的です。

本センターは、研究開発部門、連携事業部門、国際交流部門の三つの部門から成ります。研究開発部門では、国際文化にかなう研究開発、共同研究プロジェクト等の推進に関する業務、ならびに研究プロジェクトの研究成果の発表のための大型シンポジウムの企画・開催に関する業務を行い、連携事業部門では、各種連携協力活動の企画、ならびに自治体および地域団体、外部機関との連携の維持に関する業務を行っています。そして国際交流部門では、外国の研究機関との連携に伴う研究者の招聘と派遣、協定校からの招聘教員の講演会・特別講義などの企画と開催、外国人研究者の受け入れに関する業務を行っています。

三部門の協力を挙げて、とりわけ国内外の研究者と連携した様々な研究プロジェクトの開発と促進、ならびに若手研究員の研究支援力を入れていきます。そのことにより、時代の求めるより高いレベルのグローバル連携を実現することを目指しています。

活動

研究開発部門 「センター研究プロジェクト」(2014年度)

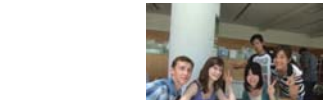
センター研究プロジェクトは、複数研究者による共同研究として行われる、国際文化学研究の推進に寄与する萌芽的研究を支援することを目的としています。2014年度のプロジェクトは以下の通りです。

- 日本研究の文化資源学 ～国際的連携のもとに
- シェンゲン圏の拡大とEU公共圏の社会的文化政策的再構築の諸課題
- 映像におけるターゲティングと美的相克：暴力・モード・性
- 現代日本における社会的排除の分野横断的研究
- 民間誌調査研究の電子的・多文化的展開
- コミュニティ創生運動における「文化活動」の役割 ―日韓英仏における事例研究―
- 神話研究における近代「神話学」の特性の解明
- アクティブ・インクルージョンの可能性とその課題 ―若年者の「能動的参加」や親密圏の視点からの新しい社会的包摂―

- 「異文化誤解」のメディア表象の構想：他者との「出会いそこない」に着目した領域横断的研究
- 世紀転換期におけるアングロ・サクソン世界の知識人と社会改革の構想

「連携事業」 Oxbridge English Summer Camp

センターの連携事業部門では、兵庫県国際交流協会との連携事業として、Oxford, Cambridge大学の連合センターの海外英語教育実習(Oxbridge English Summer Camp)を実施しています。



Oxbridge English Summer Campの開催



2014年7月のセンター一周年記念講演会「国際交流の未来」(7月19日)の模様(左から右へ：本センター長「日本とインドの文化交流と今後の国際交流について」(講演)、国立民族学博物館 杉本真貴教授「日本におけるインド研究の現状と今後の学術交流」)

2015年5月のセンター主催講演会「交流の未来(記念版)」(講師：ダニエル・サンジュー、マサチューセッツ大学 教授)

研究サポート

RESEARCH SUPPORT



キャンパス内での院生の生活・研究を強力にサポートします。

空き時間は、ここでくつろぎ、勉強する ― 院生研究室 ―
国際文化学研究所には、院生専用の研究室が設置され、各研究室にはデスクのほか、書架やロッカーも配置されています。また、院生研究室には数多くのパソコンが配置され、インターネットや電子メールを自由に利用することができます。

自分のペースで研究を進めたい方に ― 長期履修学生制度 ―

この制度は、職業を有している等の事情により、2年間で博士前期課程修了に必要な単位を修得し修了することが困難な者が、入学時に計画的に2年を超えて単位を修得し修了することを申請し、大学がこれを認めた場合、2年間の授業料を2年を超えて在学できる制度です。2年間の授業料の合計額を長期履修学生として認められた年数で除した額が年別授業料となります。ただし、在学中に授業料が改定された場合には、改定時から新授業料が適用されます。職業を有している等の事情とは、次のいずれかに該当する者で、標準修業年限内の修学が困難な者です。

- (1) 職業を有し就業している者(自営業および臨時雇用【単発的なアルバイトを除く。】を含む)
- (2) 家事、育児、介護等の事情を有する者
- (3) その他研究科長が相当と認める者

なお、この制度の利用には、上記の職業を有している等の事情以外に一定の条件があります。申請希望者はあらかじめ担当係に相談してください。



ハラスメントのないキャンパスをめざして ― ハラスメント防止委員会 ―
大学では、自由で充実したキャンパス・ライフを送ってほしいと思っています。性別、年齢に関係なく、互いを尊重する人間関係を築くことが大切です。とはいえ、人間関係が広がれば、望まないような不愉快な行動もされたり、気づかないうちに相手を傷ついたり、相手に傷ついたり、ということが起こります。ハラスメントとは、「嫌がらせ」を意味し、就労、就学上の優位な立場を利用して、相手が望まない行動により、精神的、肉体的苦痛を与えることです。性的なことに関連するセクシャル・ハラスメント、教育上のことから関連するアカデミック・ハラスメント等々、さまざまな種類があります。

国際文化学研究所には、男性、女性両方の教員からなるハラスメント防止委員会が設置されています。不祥としてハラスメントを受けた場合は、ひとりで悩まないで、早急に委員の教員に相談してください。ひとりで不安であれば、誰かに一緒に行ってもらいましょう。匿名での相談も受け付けています。委員会では、相談者のプライバシー保護に十分配慮していますので、安心して相談してください。

コピーカードの支給

授業や研究のために必要なレジュメや資料をコピーできるように、毎年、定数のコピーカードが無料で支給されます。



就職と進学

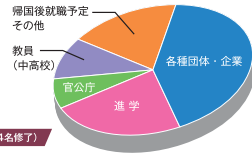
EMPLOYMENT AND CAREERS



国際文化学研究所は、創設以来、学界・教育界・ビジネス界に有為な人材を多数輩出しています。修了生はグローバル社会を切り拓くフロントランナーとして多面的に活躍しています。

1. 前期課程修了生の進路概況

2014年度の前期課程修了生54名のうち25名が、前期課程修了後研究成果を活かして就職し、社会の第一線で活躍しています。就職者の内訳では、2名が公務員、5名が中学校・高等学校教員、残りが各種団体・企業等で働いています。また、11名が修士後期課程に進学しています。一部留学期間後に本国で職につく学生もいます。



2. 前期課程修了生(旧研究科を含む)の近年の主な就職先実績

高度な語学力と情報処理能力をベースに国際文化の幅広い専門知識をつけた修了生は、さまざまな業種で活躍しています。公務員としては韓国法務省、パラオ政府芸術文化省、ベトナム政府関連など、海外からの留学生の活躍も目を引きます。教員としては英語、日本語、韓国語など、修了コースの特性を活かした分野で活躍する修了生もいます。

主要就職先

国際機関	パラオ政府芸術文化省、韓国法務省、タイ大使館、国連ハビタット(アジア・太平洋地域事務所)、ベトナム政府投資企画庁など
国家公務員	防衛省・陸軍監(英語)、大蔵省(現財務省)、国立民族学博物館、京都大学原分子実験所(技工)、神戸大学職員など
地方公務員	兵庫県人と防災センター、兵庫県警、大阪府役所、西宮市役所、新城市役所、神戸市芸術センター、兵庫県立芸術文化センター、神奈川県東山町生活環境課、神戸市役所など
企業	JICA(国際協力専門員)、青年海外協力隊(エルサルバドル派遣)、関西経済連合会、日本原子力研究開発機構など
中学校・高等学校その他	大阪府、兵庫県、東京都、岡山県、山口県、鹿児島県、福井県、神戸市など
運輸	全空営、JTB、川崎汽船、阪急交通社、NEXCO中日本など
広告	電通、リクルートメディアコミュニケーションズなど
情報	三遊研研DCS、NECソフト、NTTデータ、ソフトバンク、日本IBMインダストリアルソリューション、野村総合研究所、ヤマシシステム開発、住生コンピューターサービス、日立システムエンジニア、メディアフュージョン、ゴールドマン・サックス、NTT西日本、NECシステムテクノロジー、富士通FP、富士通ビー・エス・シー、フジクラなど
食品	JR西日本フードサービス、カネテックリカーブーズなど
製造	三菱重工業、住友ゴム工業、富士通、ダイハツ工業、NEC、YAMAHA、日本HP、日立電機、川柳機械製作所、シャープ、帝國電気、コスモ石油、パンダ、コベルコシステム、ニチダイフィルム、明和、矢崎創業、台湾日立化成工業、博瀬電機貿易(上海)有限公司、帝國電機、中国電信北京支社、JNCなど
マスコミ	共同通信、神戸新聞社、産経新聞社、中日新聞社、北日本新聞社、京都新聞社、高知新聞社、MBSラジオ、高知ケーブルテレビなど
その他	関西アルバーニーエージェンシー、東本願寺(事務)、イオン、星野リゾート、阪急阪神百貨店、三菱東京UFJ銀行、ニトリなど

3. 前期課程修了生(旧研究科を含む)の近年の主な進学実績
本学の大学院修士後期課程をはじめ、他大学の大学院にも多数が進学しています。2014年度の例では、修了生54人中、11名が修士後期課程に進学しています。

主要進学先

神戸大学	国際文化学研究所、人文学研究所、人間発達環境学研究所など
その他国立大学	京都大学大学院、九州大学大学院、総合研究大学院大学、東京理科大学大学院、神戸市外国語大学大学院など
海外大学・私立大学	シェフィールド大学、ハンブルク大学など

4. 後期課程修了生(旧研究科を含む)の進路概況

2014年度修了生の進路は、兵庫県立大学特任教授、神戸大学大学院国際文化学研究所学術推進研究員などです。

5. 後期課程修了生(旧研究科を含む)の近年の主な就職実績

大学院課程修了生において、多くの修了生が研究者・教育者として活躍しています。また近年、学位取得後、大学だけでなく企業や研究所に就職する人も増えています。

主要就職先

海外大学	天津外国語大学、青島大学日本語学部、浙江大學人文学院、ヤンゴン大学人類学、中国人民大学外国語学院、台湾国家科学委員会人文学研究中心研究員、大連外国語学院日本語学、湖南工業大学外国語学院、中国国立廣州中医药大学、中国内蒙古大学など
国立	大阪大学、神戸大学留学生センター、神戸大学百年史編集室、静岡大学、京都大学留学生センター、福井大学教育地域学、国際言語学高等専門学校教員など
国立大学等	大阪大学、神戸大学留学生センター、神戸大学百年史編集室、静岡大学、京都大学留学生センター、福井大学教育地域学、国際言語学高等専門学校教員など
私立	高橋川大学看護学部、神戸市外国語大学、兵庫県立総合衛生学院、北九州市立大学基礎教育センターなど
私立大学	大阪工業大学、近畿大学、同志社大学、プール学院大学国際文化学部、広島国際大学、大妻女子短期大学、甲南女子大学、四條学院短期大学、花園大学文学部、神戸学院大学経営学部、関西学院大学言語教育研究センター、甲南大学人間科学研究員、神戸情報大学院大学、京都川女子大学、武蔵大学社会学部、環太平洋大学など
学芸員	筑波大学大学院学芸員など
行政・企業	神戸川崎警察科捜査研究員、兵庫留学生会館、イオン、教育開発出版、メディキット、カナフレックスコーポレーション、財団法人安全確保貿易情報センター、国際交流基金、愛知県西尾市教育委員会、アステラス製薬、ファーストリテイリング、三菱銀行(中国・広州)、中国航空工業集団など

充実したキャリア・サポート

国際文化学研究所はキャリア・サポートのコアに教育を据え、それを補強する就職支援活動を強力に、きめこまやかに推進するユニークな研究科を目指しています。

就職支援を担当するキャリアデザインセンター(ODO)は、就職、留学、資格試験、人生設計などに関するキャリア関連図書が閲覧できる独自の部屋を備え、就職ガイダンスや就職活動体験発表会等の就職行事を、学部・研究科単位で開催し、また面接対策、インターンシップなど各種の情報提供を行っています。学生一人ひとりの進路選択の相談に応じ、全学の就職支援活動と密に連携しながら、充実したサポート体制をとっています。修士後期課程の就職は、今後研究者職から企業・団体等の就職へ拡大していくことが予測され、それへの対応も進んでいます。

全学の研究支援施設・学生寮・奨学金

RESEARCH FACILITIES, DORMITORIES, SCHOLARSHIPS



CALL室/ランゲージ・ハウス

研究科のキャンパスには、国際コミュニケーションセンターが運営する2種類の外国語学習支援施設があります。「CALL(Computer Assisted Language Learning)室」には、コンピュータを使用した最新の外国語学習システムが整備されており、自分のペースで段階的に学習を進めることが可能です。

「ランゲージ・ハウス」には、英・独・仏・中・露・韓の各国語を話す学生が常駐しており、気軽に外国語による会話体験を持つことができます。また、「ランゲージ・ハウス」では、英語セミナー・セミナーなど、さまざまな外国語教育プログラムが提供されており、学んだ外国語を実際に使う場が用意されています。これらの充実した施設を活用することで、外国語の実践的運用の向上が期待できます。英語をはじめとした複数外国語のブッシュアップにももちろん、ぜひ、新しい外国語の習得にもチャレンジしていただきたいです。

国際文化図書館

神戸大学には各キャンパスに図書館があります。中央図書館以外にもありません。国際文化学部図書館の入口には「総合図書館」と「国際文化学図書館」という2つの看板が掛けられています。総合図書館というのは全学共通の図書支援を行うことを目的としており、全学所管の資料の充実と努めています。国際文化学図書館は、国際文化学部・本研究所の学生・研究生向けに、文化交流や各国の文化事情など国際文化に関する資料を中心に収集しています。

本図書館では、「学生希望図書」という予算枠があり、本研究所の大学院生は、学術的な図書の購入希望を申請することができます。図書館では、蔵書の貸出しに加えて以下のサービスが提供されます。複写申し込み、学内の他図書館からの取寄せ、他大学からの図書貸与やコピーの申し込み、購入希望の受付などです。またこれらのサービスは、図書館まで行かず、学内のパソコンの画面から依頼することができ、さらに文献やコピーの到着をメールで案内してくれるので大変便利です。また図書館のホームページで電子ジャーナル検索、データベース検索、新聞記事検索を利用できます。平日は8:45から21:30まで、土曜日は10:00から18:00まで開館しています。



学生寮

大学の寮として、男子学生用に「住吉寮」「住吉国際学生寮」「国維寮」「白崎寮」、女子学生用に「女子寮」「住吉国際学生寮」が「国維寮」「白崎寮」があります。学生寮の宿料は月額4,700円~18,000円(光熱費などは別)です。格安であること、研究科を超えた友人を作りやすいことなどが寮のメリットです。また、「女子寮」を除き、日本人学生と留学生の混住型となっており、国際的な交流が期待できます。

奨学金

日本学生支援機構奨学金と神戸大学独自の奨学金、財団や企業、地方自治体などが支給する奨学金があります。日本学生支援機構の場合、第一種奨学金(無利子貸付)と第二種奨学金(有利子貸付)があり金額も異なります。

研究会・研究誌の紹介

RESEARCH GROUPS AND JOURNALS



国際文化学研究所には多くの研究会・プロジェクトが組織され、研究科の教育と研究の重要な一翼を担っています。

国際文化学研究会「国際文化学」

神戸大学国際文化学研究所は、研究科に所属する大学院生の研究を促進することを目的とし、研究成果を広く公開するために、「国際文化学」(大学院生紀要)を発行しています。「国際文化学」の前身は、2011年度まで2回(通算25号)、神戸大学国際文化学会(研究0)が発行してきた学術雑誌です。この雑誌は、研究科以外から複数の査読委員が選ばれる。その論文の審査もまた、専門的なコメントが必要な場合は外部の研究者に査読を依頼する事もあります。査読委員は、論文掲載の可否を決定するだけでなく、論文に問題がある場合には、それをどう修正すべきかについて適切なコメントを掲載者に返します。論文の修正期間が十分に確保されているので、投稿者は指導教員とも相談しつつ、じっくり論文を書き直すことができます。このような査読→修正→再投稿のプロセスを経て、大学院生は全国学会などに投稿するための学問上の基本的な作法、必要とされる学術水準について学びます。

ホームページ

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/portal/seka/cover/ISSN=21872802.html>

神戸大学社会人類学研究会「神戸文化人類学研究」

「神戸文化人類学研究」は、主に、文化人類学を専攻する大学院生や研究者の研究成果を公表する媒体です。2002年に創刊された神戸大学社会人類学研究会の会報「ほたるぎ」を前身とします。2015年度には第6号が発行されます。この雑誌は、大学院国際文化学研究所の文化人類学コースの発行学術雑誌として、学内外の二人の審査員による査読制度によって学術的水準を維持しており、国際文化学研究所の大学院生だけでなく、他大学院生、さらには近年では他大学の研究者も投稿するようになってきています。

ホームページ

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/group/nihonokoku/nengo/nengo-index.html>

なお、神戸大学社会人類学研究会は、総合人間科学研究科と国際文化学研究所の大学院生を中心に、定期的な研究会を行っています。学外の研究者も超えての議論など、活発な研究活動を行っています。

ホームページ

<http://web.cla.kobe-u.ac.jp/group/kobe-anthro/>

「日本文化論年報」

「日本文化論年報」は、1998年3月、学部および大学院の日本文化論講座(現在は日本学コース)を母体に創刊、1年1冊の刊行を続けています。

講座・コースの研究・教育活動の牽引を目的に、教員および大学院生の研究成果、また優れた学部卒業論文などを掲載しています。その他教育活動に関する書籍、卒業生情報などもあります。刊行に際しては、神戸大学山口藍子学術振興基金の補助金を得ています。

ホームページ

<http://web.cla.kobe-u.ac.jp/group/Nihonokoku/nengo/nengo-index.html>

INVITATION TO THE GRADUATE SCHOOL OF INTERCULTURAL STUDIES



About the Graduate School of Intercultural Studies

Dean's Message

The Graduate School of Intercultural Studies at Kobe University was established in 2007 from what was formerly the Graduate School of Cultural Studies and Human Science. Since the new graduate school shares its name with the Faculty of Intercultural Studies which was established in October 1992, it allows students to learn and research systematically from the undergraduate to the graduate level.

People and culture have continued to blend together as a result of the spread of globalization following the collapse of the Cold War system. We ask ourselves how we should understand changes in a globally developing society and what we should make of the significance of those changes. We want to know about changes in phenomena but at the same time ask broad questions about the frameworks through which we view those changes. Above all, there is a pressing need to reconsider thought patterns and recognition based on the nation-state paradigm.

Put another way, we should strive to redefine the paradigms of the humanities and social sciences.

The education and research in our graduate school adopts a cultural standpoint to explore transformations and continuities in the contemporary world. Intercultural Studies is not a single discipline. It is a new research area that approaches the common theme of how various cultures exist and relate to each other across a number of different disciplines. The 15 courses that make up our graduate school show that providing viewpoints from various disciplines subjectively promotes that very theme.

Our graduate school was the first among the Japanese national universities to advocate intercultural studies. It focuses on cultural standpoints while critically examining the effectiveness of such frameworks and strives to break through to leading-edge research fields and analytical methods. The door is open for you to develop new frameworks for knowledge. We sincerely hope to work together in this endeavor with intelligent, inquisitive young researchers like you.

Our Goals and Principles

The philosophy of the Graduate School of Intercultural Studies is to cultivate advanced fields of cultural studies, with an eye towards intercultural coexistence, and to construct new paradigms for understanding human culture. To this end, we have formulated the following five research aims:

- (1) Pursuit of cultural research that understands culture as a complex entity and takes intercultural relations as its perspective.
- (2) Dynamic research into culture as a complex entity with attention to intercultural interaction in such forms as conflict, fusion, and interchange.
- (3) Multifaceted studies of cultural transformations amid the globalization of contemporary world.
- (4) Development of advanced communication research related to language and information.
- (5) Execution of a shift from monocular, single paradigms that apply over-simplified dichotomies such as central / peripheral, civilized / uncivilized, and advanced / backward to pluralistic, multiplex paradigms, and the creation of research methodologies adapted to the cultural dynamics of contemporary society.



Professor Kazuhiro OHTSUKI
Dean of the Graduate School of Intercultural Studies

Admission Policy, Diploma Policy

	Admission Policy	Diploma Policy
	<p>The objective of the Kobe University Graduate School of Intercultural Studies is to nurture individuals who have deep intercultural understanding and flexible communication skills, as well as profound scholarship and creative research skills.</p> <p>In view of this human resource development goal and the four objectives prescribed in the university-wide degree conferral policy, the graduate school awards degrees to students who have successfully completed the curriculum in line with the following two policies.</p> <p>In view of this educational goal, the Graduate School seeks students who have the following characteristics.</p>	<p>The objective of the Kobe University Graduate School of Intercultural Studies is to nurture individuals who have deep intercultural understanding and flexible communication skills, as well as profound scholarship and creative research skills.</p> <p>In view of this human resource development goal and the four objectives prescribed in the university-wide degree conferral policy, the graduate school awards degrees to students who have successfully completed the curriculum in line with the following two policies.</p> <p>Students shall study at the Graduate School of Intercultural Studies for two years in principle, earn the credits required for completion, and pass a review of the master's thesis or research report.</p> <p>Students of the Graduate School of Intercultural Studies are encouraged to achieve the following learning goals by the completion of the program.</p>
Master's Program	<ul style="list-style-type: none"> •Have a keen interest in understanding culture as a complex entity and pursuing multifaceted studies of intercultural correlation. Have the fundamental capabilities required to achieve this. •Have a keen interest in understanding the dynamics of language and information communication and addressing various problems confronting the contemporary global society. Have the fundamental capabilities required to achieve this. •Have a keen interest in carrying out interdisciplinary research based on high standards of expertise. Have the fundamental capabilities required to achieve this. 	<ul style="list-style-type: none"> •Understand culture as a complex entity and pursue multifaceted studies of intercultural correlation. •Understand the dynamics of language and information communication and address various problems confronting the contemporary global society. •Carry out interdisciplinary research based on high standards of expertise.
Doctoral Program	<p>The objective of the Kobe University Graduate School of Intercultural Studies is to nurture individuals who have deep intercultural understanding and flexible communication skills, as well as profound scholarship and creative research skills.</p> <p>In view of this educational goal, the Graduate School seeks students who have the following characteristics.</p> <ul style="list-style-type: none"> •Have a keen interest in clarifying the structure and dynamics of culture as a complex entity and proactively exploring an advanced field of cultural research. Have the fundamental capabilities to achieve this. •Have a keen interest in pursuing various language and information communication issues and conducting multifaceted studies on the increasingly globalized contemporary world. Have the fundamental capabilities to achieve this. •Have a keen interest in carrying out cross-disciplinary research based on superior expertise. Have the fundamental capabilities to achieve this. 	<p>The objective of the Kobe University Graduate School of Intercultural Studies is to nurture individuals who have deep intercultural understanding and flexible communication skills, as well as profound scholarship and creative research skills.</p> <p>In view of this human resource development goal and the four objectives prescribed in the university-wide degree conferral policy, the graduate school awards degrees to students who have successfully completed the curriculum in line with the following two policies.</p> <p>Students shall study at the Graduate School of Intercultural Studies for three years in principle, earn the credits required for completion, and pass the doctoral degree review.</p> <p>Students of the Graduate School of Intercultural Studies are encouraged to achieve the following learning goals by the completion of the program.</p> <ul style="list-style-type: none"> •Clarify the structure and dynamics of culture as a complex entity and proactively explore an advanced field of cultural research. •Pursue various language and information communication issues and conduct multifaceted studies on the increasingly globalized contemporary world. •Carry out cross-disciplinary research based on superior expertise.

Organization of the Graduate School of Intercultural Studies

15 specialized courses for interacting with society and living in the world

Departments and Divisions

When comparing the nature of cultures in modern society to address modern issues such as cultural confrontation and conflicts, it is essential to develop the ability to examine cultural trends in an increasingly globalized world. To do this we have to examine both the cultures of different regions and cross-cultural interaction.

Accordingly, the Graduate School of Intercultural Studies has two departments – Cultural Interaction, for multifaceted commentary on the nature of intercultural interaction based on the results of cultural research in different regions, and Culture and Globalization to investigate the contemporary cultural phase generated by globalization.

Consisting of the Area Studies Division for interdisciplinary studies regarding region-specific cultural traits and cultural metamorphosis, and the Intercultural Communication Division for multifaceted research on the reality of cross-cultural contacts, conflicts and interactions, the Cultural-Interaction Department aims for (1) understanding of cultures of different regions, (2) understanding of cross-cultural relations and interactions, and (3)

development of cross-cultural communication abilities.

The Culture and Globalization Department consists of the Contemporary Culture and Society Division for comprehensive research into contemporary social and cultural circumstances amid the erosion of modern Western principles accompanying globalization, the Human Communication and Information Science Division for investigation of issues involving verbal and non-verbal communication and use of diverse information media, and the Second Language Education Division for advanced research concerning second language education and production of outstanding practitioners in this field. In addition, there is also a joint research group for Advanced Communication in the Doctoral Course in cooperation with the Advanced Telecommunications Research Institute International (ATR). With these divisions and courses, we aim to (1) investigate acculturation brought about by globalization and the establishment of new public culture, (2) develop advanced global communication, and (3) research foreign language education for the global era.

Department	Division	Course
Cultural Interaction Multifaceted elucidation of the nature and attributes of intercultural interaction based on the results of cultural research in different regions	Area Studies	Japanology Asia-Pacific Culture Studies European and American Culture Studies
	Intercultural Communication	Cultural Anthropology Comparative Studies of Civilization and Culture International Relations and Comparative Politics
Culture and Globalization Elucidation of the contemporary cultural phase generated by globalization	Contemporary Culture and Society	Modernity Studies Contemporary Social Issues
	Human Communication and Information Science	Art, Culture and Society Studies Linguistics and Communication Studies Human Communication Computers and Communication
	Second Language Education	Systems of Second Language Education Contents in Second Language Education
	Joint Research Group (Doctoral Program)	Advanced Communication

Master's Program – Two Learning Tracks to Suit Your Aspirations –

Develops key persons of international society and new researchers to lead the era

– Different styles for different goals from start to finish –

	Career Enhancement Track	Researcher Track
Entrance Exam (General Admission, Special Selection for Adult Applicants, and Special Selection for Foreign Students)	1. Test of basic subjects You must choose one of the following subjects: a foreign language, classical Japanese literature, computer science, or (for non-Japanese applicants only) Japanese. However, the subjects you can choose from also depend on the course to which you are applying, so make sure to check the application guidebook for further details. 2. Test of major subject 3. Oral Examination	Tutors provide quality individual guidance (tutorial). Students mainly take Advanced Expertise Seminars to build basic skills required for a research. Students may take Special Seminars in the doctoral program. Students shall submit a master's thesis or master's folio (a combination of achievements).
Curriculum	Seminars to develop high-level skills in foreign language, information handling and presentation Students mainly take Special Lectures, which are given to a small group in an interactive manner rather than a one-way lecture. Students who have earned the required credits and submitted a research report can obtain master's degree.	The Researcher Track is for students who intend to take the entrance exam to the doctoral program and proceed to the program. Students will become researchers or high-level specialists.
Future career	Students will obtain master's degree and work in international fields as specialists.	

Two Educational Tracks

The program has a Career Enhancement Track and a Researcher Track. Applicants by General Admission and Special Selection for Adult Applicants should select one of these two tracks when applying for admission. Applicants by Special Selection for Foreign Students will have the opportunity to select one after enrollment.

Career Enhancement Track

This track caters to students who intend to enter the workforce after completing the master's program. By acquiring broad expertise and practical applied skills, students seek to develop their career to a higher level. Students can earn the master's degree by acquiring the requisite credits in courses centered on special lectures and by submitting a master's research report appropriate for their career design.

Researcher Track

This track caters to students who intend to continue on to for and enter the doctoral program. The track offers a curriculum designed to develop researchers and high-level specialists. To complete the track, students are required to take requisite credits in courses centered on advanced expertise seminars and to submit a master's thesis or a master's folio.

Academic Skill Seminars

The objective of the seminars is to effectively learn methods and techniques and acquire other academic skills required for research in various fields.

- IT Skills Development
- Academic Communication (English)
- Academic Writing (English)
- Academic Writing (Japanese)
- Social Research Methods
- Field Research
- Statistics and Quantitative Analysis Methods

Master's Folio

The master's folio is comprised of multiple research products that are loosely tied to a single theme, and which can be submitted in place of a master's thesis. As a master's folio does not have to be in the form of a single thesis, many diverse research products that would previously not have been accepted as a master's thesis – compositions, research reports, etc. – are accepted as part of a folio. This makes it easier to conduct applied research that is relevant to one's work or workplace, and because the work is divided up and presented on numerous occasions, it also allows for systematic writing and research.

Doctoral Program – Developing Independent Researchers –

For deeper study in a research field
– flexible support to obtain a PhD in three years –

	Careerwork Program
Research theme	Theme suited for the research field of the course
Research style	Individual research
Research guidance	The whole teaching staff, especially the tutor, provides support.
Process to obtain PhD	<1st year> Present a concept in a joint seminar of the course, publish an academic article and submit a basic doctoral thesis. <2nd year> Publish an academic article, make a presentation at a conference and submit a preliminary doctoral thesis. <3rd year> Submit part of a thesis draft to a joint seminar of the course once a month and receive guidance and support from the whole teaching staff. Submit a doctoral thesis.
Expected achievements	Achievements of academic research where free thinking and creativity of individuals are tapped to the maximum

Career and Professional Development

– Career Paths to the World –

Master's Program Cultural Interaction Department	Culture and Globalization Department	Doctoral Program Leading researchers who promote "international cultural studies" in the world
<ul style="list-style-type: none"> - As a specialist - - Specialist at an international organization such as the United Nations or JICA - Official of various public and private organizations that plan introductions to Japanese culture and exchanges - Cultural planner at a museum - Junior/senior high school teacher (English) with a high level of expertise - Partner for the cultural exchange programs of a local government unit or company - Person in charge of training in a foreign-affiliated company or joint venture - Leader of a regional NPO taking the lead in cultural activities and cross-cultural understanding - As business professional with the ability to take practical actions - - Employee at a foreign-affiliated company or joint venture - Employee at a trading company or other type of company - Personnel for overseas expansion of a Japanese company 	<ul style="list-style-type: none"> - As a specialist - - Cultural policy specialist or art manager with knowledge of music, fine arts and other types of arts - Journalist or government employee who addresses the various issues of changing cultural cultures such as gender and public nature - Junior/senior high school teacher (English) with a high level of expertise - Employee/teacher at a language education company - Editor of language education materials - Researcher/specialist/advisor at a foreign student center - Japanese language teacher - Interpreter/translator - Employee of a language/IT corporate laboratory - As a business professional with the ability to take practical actions - - Software engineer - System engineer 	<ul style="list-style-type: none"> - Researcher at an international organization/ research institute - Researcher at a national/public/corporate laboratory - Teacher at a college/junior college/specialized vocational/high school - Degrees that can be obtained - Master's Program - Master's degree (Master of Arts) - Doctoral Program - Doctor's degree (PhD) - Qualifications that can be obtained (Master's Program) - Junior High School Specialized Teacher's Certificate (English) - Senior High School Specialized Teacher's Certificate (English) - Custodian (can also be obtained in the Doctoral Program)

15 SPECIALIZED COURSES



Japanology

In the Japanology Course, we clarify human activities in Japan from a cultural point of view while positioning Japanese culture relative to various cultures in the world. We aim to address, jointly study and learn an extremely wide range of cultural and social issues from ancient to modern times concerning literature, arts, religion and philosophy. The course also provides opportunities to improve professional skills for reading ancient papers and reviewing documents, which are often required to deepen understanding of Japanese culture and society. Moreover, the course provides specialized training to foreign students so that they can discuss Japanese culture and society by an academic process without being captivated by popular views of Japan. Our objective is to nurture individuals who can discuss Japan with specialized skills and high-level academic capabilities.

Students' research themes

Master's course: Research on gender equality program of Kobe city. A study on the source History of Onsenji-temple in Kinokasa; A research on the thoughts of the flower arrangement practice in the Edo period; Images of Japanese performing arts displayed in journals for national propaganda; etc.
Doctoral course: Ethnographical study on the folk music and dance for rice-planting. A study of folk literature in connection with feudal lords in the early modern era; A study on cultural policy on radio broadcasting in the post-war Okinawa under US military occupation; A study on izumo system in cha-no-yu (tea ceremony) since the modern era; Yamada Kousaku and film music; A study of the hygiene problems in East Asia in the 19th century; focusing on an open port Incheon, Korea.

Teaching staff

Nobuyuki KONNO, Associate Professor Subjects: Japanese Language and Culture Research fields: Japanese intellectual history, Associate Professor Konno conducts studies on the relationship from the 1930s to the 1960s from viewpoints with an awareness of history and religion.	Motoki KINOSHITA, Professor Subjects: Traditional Japanese Literature Research fields: Professor Kinoshita studies traditional literature and discusses issues concerning religion, culture, society, historical awareness, etc. that led to its transformation and development.
Fumiko TAKURA, Associate Professor Subjects: Japanese Visual Arts Research fields: Studies on Japanese films and films in general. Based on the methodology of film study, Associate Professor Takura studies Japanese films from international and historical viewpoints.	Naoko TERAOCHI, Professor Subjects: Japanese Performing Arts Research fields: Studies on Japanese traditional music and performing arts. Focusing on sounds made with the body, Professor Teraochi discusses culture of the Japanese archipelago in relation to various cultures in Asia and other parts of the world.
Shizue OSA, Professor Subjects: Japanese Modern History, Gender History Research fields: Studies on Modern Japanese history, Professor Osa conducts studies on the War memory and Occupied Japan.	

Asia-Pacific Culture Studies

Going through major changes in economy and international exchanges, the Asia-Pacific region is rapidly growing. In this sense it is one of the most active regions in the world. However, just following the superficial flow of such development is not enough to understand the characteristics of the region. East Asia, Southeast Asia and the Pacific Area all have extremely complex and diverse old traditions, and have become what they are as such tradition has changed with the wave of globalization. Therefore, in order to have a deep understanding of the characteristics of the region, we need to conduct specialized in-depth studies on many aspects including social structure, religion, history and economic circumstances. This course has a well-established guidance system where professors with diverse specialties teach research methods in classes on a broad range of research fields.

Students' research themes

- Studies on Thai wives who have Japanese husbands
- Representations and practices of Ainu Culture today — Case studies of cultural activities in Shirai town
- Historical studies on the influence on the Japanese race in Australia from the early development of Australian-Japan relationships
- Naxi native official surname Mu in Lijiang, Yunnan during the Ming Period 14-17 centuries
- College students' conflicts about love and sex in Indonesia
- Studies on specialties and the training of specialties in Outer Mongolia in the Qing period
- A study about the Ownership of Farmlands and its Contracts in Inner Mongolia during Manchu Qing Period: Cases in Guljuchang Tumed Banner (12th Asia Pacific Research Prize Winner article)

Teaching staff

Tomomi ITO, Associate Professor Subjects: Culture and Society in Southeast Asia Research fields: Southeast Asian Studies. The studies, studies on Buddhism and women	Yasuhi SADAYOSHI, Professor Subjects: Science, Technology and Civilization Research fields: National Integration in Southeast Asia Research fields: Modern history of Indonesia, studies on overseas Chinese, etc.
Hi WANG, Professor Subjects: Culture and Society in China Research fields: History of Chinese modern thought, Relation between China and Japan	Shinichi TANIGAWA, Associate Professor Subjects: Politics and Society in China Research fields: Political and social movements in China, Changes in the state-society relations in China
Sachiko KUBOTA, Professor Subjects: Culture and Society in Oceania Research fields: Cultural anthropology on Oceania	Mamoru HACHIHARA, Professor Subjects: Culture and Society in Mongolia Research fields: Asian history, especially Mongolian and Chinese history from the Qing period to the present

European and American Culture Studies

In the European and American Culture Studies Course, we conduct multifaceted and comprehensive education and research on European and American societies and cultures, which have been playing a central role in world politics, economy, culture etc. in modern times. Although the cultures developed in these regions spread worldwide, it is common knowledge that it is now critically reexamined. Moreover, there has recently been progress in studies on the societies and cultures in Europe and America that only played a peripheral role in establishing the modern era. Based on these past achievements, we reexamine the Western thoughts and values that seem deeply rooted in our modern lives and consciousness, and seek their meanings in the 21st century. We want to reveal the unknown depths of Europe and America through a course of concrete studies in a wide range of fields including history, language, religion, philosophy, literature, art and social system.

Students' research themes

The "German Legends" of the Grimm Brothers, A Study on William Morris, Acceptance of Victorian Culture in "Henry Potter", Modern French Fashion, Czech Romantic Literature, Czech Baroque Studies, A Study on G. Broni, Establishment of the Minskese language, Analysis of Visual Gags in L. Uwe Lucy, Stereotype of the Japanese People in Hollywood Movies, Problems of Italian Immigration in America, Pacifism, Isolationism and Populism in the United States of America during Interwar Periods

Teaching staff

Yoko AOSHIMA, Lecturer Subjects: Culture and Society in the Slave World Research fields: Professor Aoshima studies the modern history of Russia and Eastern European countries. She is specially interested in modernizing reforms, social transformation and emergence of nationhood in the state.	Chiyo SAKAMOTO, Professor Subjects: Representatives of French Culture Research fields: Professor Sakamoto specializes in French literature with special interest in French literary writers and their works. She studies French literary writers of the 19th century including George Sand and Marie d'Arbois, and their works. Her work is included in a wider range of issues will be addressed in her class, such as the history and representation of European women.
Hirotaka ISHIZUKA, Professor Subjects: English Civil Culture Research fields: Professor Ishizuka mainly studies the culture, society and literature of Victorian England. She is interested in novels by Dickens, George Eliot, etc., and looks from various angles into the cultural and social matters of general interest in the text, including social issues, the royal family, leisure, education, gender and the arts.	Takuya NISHITANI, Professor Subjects: Literary and Visual Culture in North America Research fields: American literature, especially Herman Melville, Nathaniel Hawthorne, and other writers of the American Renaissance. His studies, especially adaptation studies and comparative studies in the narrative representation in film and literature.
Hirotaka INOUE, Associate Professor Subjects: Formation of a Self in the United States Research fields: Based on politics, Professor Inoue conducts American studies with a focus on the history of multiculturalism and democracy in the United States from the end of the 19th century to the 20th century.	Koji NOTANI, Professor Subjects: Advanced Studies in Religion and Culture in Britain Research fields: Professor Notani conducts studies the relation between Christian religion and English and American cultures. He works to see how religion is included in the formation of culture and view religion as an identity component for individuals and culture.
Takuya OZAWA, Associate Professor Subjects: Latin American and Global History Research fields: Professor Ozawa specializes in Latin America, especially the modern history of Central America. He studies ethnic issues and culture concerning export crops that largely shape the society of Central America.	

Cultural Anthropology

In the Cultural Anthropology Course, teaching staff specialized in various themes and regions provide a high-quality education and research curriculum. Today's various cultural issues are characterized by the dynamism of the conflict, division, integration, recombination, generation and extinction of various cultures and values under the influence of globalization. In the course, we jointly consider methods of resolving dialogues among various cultures based on deep intercultural understanding, by viewing the world from on-site research investigation field work with broad and flexible perspectives. We welcome students who wish to be internationally successful specialists and researchers and foreign students who wish to conduct high-level anthropological studies.

Students' research themes

Master's program: cargo cult, Kazakh identity, tourism, multiculturalism, post-Soviet period, postcolonialism, status of women in China, Boze in Akuseki Island, local Hawaiian, Penruin living in Japan, primitive art, kula trade, fare trade in Bangladesh, Education of Nation-State, Over-Sea Korean, International marriage, Vietnamese in Japan, Cultural Heritage, World Heritage, Multi-culturalism in Japan, Nikkei in Argentina, Korean American, Hispanic, bilingualism, Chinese American, Caribbean in America, Brooklyn Carnival, Native Canadian, sustainable tourism, ethnic music, multiculturalism in America, ethnic identity, South Americans in Japan, Nikkei Brazilian, Nikkei Hawaii, life history, diaspora, transnationalism, Dominican baseball migrants, Postcolonialism in Jamaica, Postcolonialism, Christianity and contextualization, development and women in Mexico, participation and development
Doctoral program: cultural authenticity, Aesthetics of Vanuatu, historical anthropology, religion, Korean, homelessness, the Experiment in International Living Care and Family of China, Social Change of Korean Village in China, Feminization of Migration, Over-Sea Chinese in Vietnam, Anthropology of Tourism in Vietnam, masculinity, gender in the Caribbean, popular music, reggae, soccer, dancehall, identity politics, mixed race, "Halu", representation

Teaching staff

Hiroyuki IIMEDA, Associate Professor Subjects: Ethnology Research fields: Social anthropology, East African ethnology, studies on witchcraft and sorcery, Japanese folk-culture, anthropology of development	Yoshihiko SHIBATA, Professor Subjects: Modern Anthropology Research fields: Cultural anthropology, Caribbean studies, diaspora, cross/cultural/hybridity, race/ethnicity, migratory mobility, globalization, Christian studies, education
Hirotaka OKADA, Associate Professor Subjects: Ethnography Research fields: Societies in East Asia (Korea and Vietnam), reorganization of families and nations in the process of colonialization and modernization, minorities and multiculturalism, Space Anthropology	Masanori YOSHIOKA, Professor Subjects: Social Anthropology Research fields: Cultural anthropology, Oceania studies, cities and urban culture, anthropological studies on primitive arts.
Tsuyohiko SAITO, Associate Professor Subjects: Cultural Anthropology Research fields: Social anthropology, Middle Eastern ethnology, anthropological historic studies, Monaco	

Comparative Studies of Civilization and Culture

In this course, we deal with various aspects of civilization and culture that transcend the boundaries of various matters such as geography and language, and conduct comparative studies from a historical point of view concerning the dynamism of the transformation brought about by the transmission and propagation of such aspects with a focus on scientific and technical civilization and linguistic culture. With the asymmetric nature of advantages and disadvantages in civilization and culture in mind, we focus on such aspects as resistance, prejudice and creation underlying the phenomena considered to be unilateral acceptance, and aim to deepen our understanding of the interactions of such aspects and the bidirectionality of transformation based on the latest studies.

Students' research themes

Master's program: Foreigners in Meiji Japan, Text-Image Relations in the Classics, Gardens in Myths, View of Nature, Environmental Issues, Food and Toxic Chemicals, Whitehead's Philosophy of Organism, Xu Guang-qing's View on Mathematics

Teaching staff

Yuka NITAMURA, Associate Professor Subjects: Translating Classical Literature Research fields: The reception of classical Japanese literature in modern times with a focus on the "Talk of Genji".	Nobuo MURA, Professor Subjects: Science, Technology and Civilization Research fields: Although his specialty is science history, Professor Mura encourages students to select interesting themes concerning film, studies, medical times in the West and the Renaissance.
Togo TSUKAHARA, Professor Subjects: Science, Technology and Society Research fields: Professor Tsukahara studies science history and technological societies.	Takayuki YAMASAWA, Associate Professor Subjects: Transcultural Studies in the Ancient World Research fields: Ancient Greek and Roman Cultures. As it is not archeology, the class will not excavate ruins and receive a lot of media coverage. It is unexpected for graduate, but Associate Professor Yamawake believes there is still a lot we can learn from the documents left by ancient people.
Masaru TOHDA, Professor Subjects: Japan's Cultural Exchange Research fields: Professor Tohda specializes in the studies on comparative literature and comparative culture with a focus on Japan's cultural exchange in the Meiji era. He has written research papers concerning Lafcadio Hearn, Sozoku Natsume and Masao Miyoshi.	

International Relations and Comparative Politics

We welcome students who are looking for chances to study Japanese politics and foreign affairs. You would consult with one of five professors of this department who are specialists in international relations, international political economy, security studies, public policies and urban administration. The area of research fields of graduate students are varied covering such countries as Japan, China, India, Europe, America, Middle East, etc. The staff, along with graduate and undergraduate students will be actively engaged in research work in line with the international standard. Students can master a variety of methodologies and approaches through the team teaching method run by five academic staff. Please feel free to contact us if you have any questions. This department offers foreign students the opportunity to study the internal politics and diplomacy of their home country from a comparative perspective.

Students' research themes

Thematic approach: Regional integration, Preventive diplomacy, Conflict and Peace building, Security, Ethnopolitics, Party politics, Democratization, Welfare state, Educational policy, Transnational relations, Contemporary history of International relations
Regional approach: EU studies, French politics, British politics, German politics, Spanish politics, Italian politics, Politics in Northern Europe, American politics, Politics in the Middle East, Politics in ex-Yugoslavia, Indian politics, Sino-Japanese relations, Sino-American relations, Politics in the Mediterranean

Teaching staff

Kazumari SAKAI, Professor Subjects: International Relations in Europe, EU-Japan Relations Research fields: Development and status of European integration, ethnic issues and conflict prevention, contemporary French politics and diplomacy	Satoru NAKAMURA, Associate Professor Subjects: Security Study in the Middle East, Middle Eastern Politics and History Research fields: Present Situation in the Middle East, Middle Eastern Political Economy, Saudi Arabian History
Masaki KONDO, Associate Professor Subjects: Comparative Welfare Studies Research fields: Contemporary German politics, politics of the Japanese welfare state, immigration and welfare state	Tomokazu SAKANO, Professor Subjects: Comparative Politics Research fields: European integration and domestic politics and economy, transformation of the re-organization process of a welfare state, contemporary modern Britain politics, party politics

Maruharu YASUOKA, Associate Professor
Subjects: Comparative Public Policy, American Politics
Research fields: Comparative Public Policy, American Politics and Government, Urban Politics, Contemporary modern American politics (especially the federal system and urban issues)



15 SPECIALIZED COURSES

Modernity Studies

The basic framework of our contemporary society consists of three distinct realms, the techno-economic structure, the polity, and the culture. The ruling principles of these three realms, such as functional rationality, the idea of equality, and expression & realization of "self," originated in Western Europe with the arrival of the modern period. Today, however, these principles are proving to be discordant and are being shaken to their roots along with the progress of globalization. This situation demands a re-examination of the meaning of "modernity" and an accurate reading of just where the world is (should be) heading in the ongoing upheaval. The Modernity Studies Group covers a wide range of disciplines from social thought, economic thought, and political thought to aesthetics, literature and visual arts. Through careful analysis of the prevailing principles of the three realms of the modern world, we aim to cultivate firmly grounded capabilities of cognition that are required for tackling actual issues in our society.

Students' research themes

Master's program: M. Foucault and Herulmine Barbin, Peter Berger's idea of "everyday" and religion, Alfred Schütz's idea of "relevance"
Doctoral program: Ernst Jünger, "technology," Niklas Luhmann, social system theory, Herbert Spencer, modernization of Japanese society, D. H. Lawrence, eco-criticism

Teaching staff

Takiko ISHIDA, Associate Professor Subjects: Cultural Anthropology Research fields: Aesthetics and history of art theory, Lecture/field conducts her studies under such theme as the history of modernism and the art of artistic communication with others. Her research papers include "Art and 'skin' - Political Community," "Theory of Colorism and Social Theory 1," "Aesthetics - Cultural Study," "Critical books include: From Aesthetics to Politics: Modernist Poets and 'Fashion' (Sophia UPL)	Shigeru OHNO, Professor Subjects: Modern Social Thought Research fields: History of sociology and social thought, Professor Ohno analyzes the meanings of such complicated concepts as society, history, culture and life in modern thought, based on the studies on the history of social thought of the Frankfurt School philosophers including Sennel, Weber and Adorno, Heidegger, Jacques Derrida, Jürgen Habermas and Gernot Böhmer.
Yoshihiko OHIDA, Professor Subjects: Modern Economic Thought Research fields: Social thought, Professor Ohida studies philosophical segments of politics, economy and ethics with a focus on the contemporary French thought of Althusser, Foucault and Derrida. His books include "Althusser: Philosophy of a Connector."	Rie MATSUURA, Professor Subjects: Cultural Representation Research fields: English literature and philosophy, Professor Matsuura explores the contemporary meanings of Romanticism with a focus on the view of nature and sympathetic imagination. Her books include "Years and Apollo: Keats' Poems and Greek-Roman Mythology," "Ethereal."
Naritoshi UENO, Professor Subjects: Modern Political Thought Research fields: History of political and social thought, Professor Ueno analyzes such key concepts as "violence," "body" and "public sphere" in the form of social philosophy, focusing on the history of thought concerning the philosophy of the Frankfurt School thought, Habermas and Adorno. His books include "Horror of the Thought" - "Violence" (Iwanami Shoten).	

Contemporary Social Issues

The interaction of humans with nature has been seriously undermined and is becoming increasingly complex in modern society. The objective of the "Contemporary Social Issues" course is gaining understanding of contemporary society through an interdisciplinary approach that bridges the humanities and social sciences in exploring leading issues in modern society. For example, we analyze the changes in thinking surrounding nation states, families and individuals from the perspective of gender theory to capture socially constructed human relations; explore the fluctuation of norms surrounding human life and death; envision an equitable solution to global challenges such as overpopulation, absolute poverty, human-rights violation, etc.; and seek to understand human nature and society in a multicultural world faced with informatization of the consumer society facilitated by innovation in media technology. The "Contemporary Social Issues" course disentangles these conflicting problems theoretically, and provides a means of tackling them realistically.

Students' research themes

- Gender division of labor in the home in urban China
- Euthanasia seen from the perspective of the right to self-determination
- Why is the sex selection of a child unacceptable?
- Racism in dance hall reggae
- A sociological study of "ostentatious communities"
- Urban youth subcultures in Japan: The changing perception of public space with reference to the case of parkour
- NPfON20 network media: Is accessing the public sphere possible through the Internet?
- Occupation and sexuality: GHQ's policy-making on prostitution (Doctoral dissertation)
- Feminism as relation: From the perspective of interaction between images, individuals and methodology
- Changes of heart and the development of moral individualism (Doctoral dissertation)

Teaching staff

Kazuo AOYAMA, Professor Subjects: Gender and Social Culture Theory Research fields: Sociology, gender and sexuality, Professor Aoyama is also interested in issues such as globalization, multiculturalism, social exclusion and inclusion, the right to privacy and representation. She is pursuing a combination of theoretical and empirical research methodologies to look for phenomena that cause changes across public and private life such as immigration, care for sex workers, same-sex marriage, and gender identity "divorce."	Satsuki MUKAHAKATA, Professor Subjects: Cultural Norm Formation Theory Research fields: Cultural Norm Formation Theory Research fields: Mukahakata is currently exploring the fluctuations observed along with the formation of new norms surrounding gender. He is searching issues surrounding modern gender norms within major trends in modern thought.
Hirotaka OGASAWARA, Associate Professor Subjects: Media Society and Culture Research fields: Associate Professor Ogawara is studying sociology and cultural studies. He discusses empirical, theoretical and historical thought regarding the relationship between multicultural capitalism and racism, especially in the fields of media and sport.	Yasuyuki YAMAZAKI, Professor Subjects: Media Society and Culture Research fields: Media Society and Culture Research fields: Professor Yamazaki has been studying problems at the boundary between laws and ethics/morality, with a focus on the issues that occur when morality and ethics are institutionalized in law in bureaucratic-related areas and questions over human emotion, surrogacy and transsexuals.
Tatsuo SAKURAI, Professor Subjects: Contemporary Jurisprudence Research fields: Professor Sakurai specializes in legal philosophy. He is particularly engaged in "global justice," i.e., how we should understand the meaning of national borders when we address global issues such as artificial islands and social justice. He is now working on the problem of whether the establishment of national identity is a necessary prerequisite for the study of democracy.	Akihiko NISHIZAWA, Professor Subjects: Contemporary Social Theory Research fields: Professor Nishizawa specializes in sociology and urban studies. He has been dealing with contemporary social problems, focusing on the New York and the identity of the urban poor class as an urban social landscape. His recent books include "The Sphere of Poverty: Who is excluded?", "Knowledge-Sharing, etc."

Art, Culture and Society Studies

Art and Culture Theory Courses are configured from an arts and culture environment system and content-based arts and culture. Research is conducted on fine art (painting), literature, performing arts (music, opera, theater), and fashion art and how they are related to society.

Students' research themes

Master's program: Local community, Public theater organizational management, Network formation between non-profit organizations, Community art, Social and Cultural Center in Berlin, Civic activities and cultural policy in Sweden, Cultural policy in Singapore, Protection and application of cultural heritages, Historic sites of France and China, City space improvement in Paris, Church building during the Russian Imperial Period, Japonism, Tadamasa Hayashi, French Impressionist painter Gustave Caillebotte, French Women Writer, Japanese avant-garde calligraphy and abstract expressionism painting, Women and modes in France, Japanese Street Fashion.

Doctoral program: Cultural Policy and social inclusion, Modern advertising in Japan, Daumier and the modern city of Paris, Acceptance of modern French music in prewar Japan, Formation of Japanese ceramics collections in France and the trade between Japan and France, Kenji Miyazawa and the optics.

Table with 2 columns: Faculty Name and Research Interests. Includes professors like Mio ASAKURA, Hiroko Ikegami, Kazuo Fujino, and others.

Linguistics and Communication Studies

Rather than a mere means of communication to convey concepts and messages to another party, "language" is also closely related to culture and human cognition, thinking and customs. This course seeks for an effective method of teaching Japanese to foreigners based on comparative and contrastive analysis related to language structure and language usage.

Students' research themes

Master's program: Modality in Thai, Fillers in Japanese and French, Rhetoric, Persuasion, Words written in Katakana, Translation of onomatopoeia in comics, Bilingualism, Social aspect of Japanese language education, etc.

Table with 2 columns: Faculty Name and Research Interests. Includes professors like Naoko Kawakami, Miko Saito, Junko Tanaka, and others.

Human Communication

Human Communication Program presents a wide range of opportunities for research about communication based on human sciences and cognitive sciences. Students can learn advanced knowledge of communication by studying phonetics, semantics, interface studies, psycholinguistics, psychology, and neurology.

Students' research themes

- The influence of working memory contents on visual search.
- Cueing effects of target location probability and repetition.
- A Japanese-Chinese comparison on syntax and sentence delivery
- Changes in prosody caused by shadowing training of Japanese
- Recognition and acoustic features of attitudes realized in Chinese

Table with 2 columns: Faculty Name and Research Interests. Includes professors like Toshiyuki Sadanobu, Ryoiko Hayashi, and others.

Computers and Communication

The Computer Communication course is a course on using information technology, such as computers and the Internet, for teaching and research. This course teaches the latest online information skills, collection, analysis and sorting of communicative information on computers, and other such immediately useful high-level information processing skills.

Students' research themes

Analysis of the forms of study in branches of information, Automated classification of literature XML searching method Learning system for IT specialists Error-checker in foreign language learning systems, Utilization of memory mechanism in learning systems, Bottom-up question support system, Communication-based city discovery, Reverse onomatopoeia delivery, User interface, Communication assistance

Table with 2 columns: Faculty Name and Research Interests. Includes professors like Kazuhiko Ohtsuki, Min Kang, and others.

Systems of Second Language Education

In Foreign Language Education Systems, we research the fields of linguistics, psychology, expression and media analysis as they relate to foreign language education, developing students' ability to link them together and employ them in teaching foreign languages. In particular, in the field of educational research, we focus on:

- (1) researching linguistic education by applying knowledge of linguistics, psychology and related fields
(2) researching broad methods of teaching literary culture and the works that reflect them, such as well as adapting this to teaching languages
(3) demonstrating research relating to preparing an environment for linguistic education, such as IT education systems
(4) researching the environmental, cultural and societal bases of linguistic education
(5) assessing research on support in the teaching scene, such as demonstrations of educational guidance

Students' research themes

Master's program: Use of Lexical Stress Information in Silent Reading and Speech Production by Japanese Learners of English: Evidence from Eye Movements and Naming Tasks, The Effects of Short-Term Overseas Training and Corrective Feedback on Second Language Writing of Japanese Learners of English

Doctoral program: The automatization of grammatical encoding process during oral sentence production by Japanese EFL learners: A syntactic priming, An investigation of the automaticity in parsing for Japanese EFL learners: Examining from psycholinguistic and neurophysiological perspectives

Table with 2 columns: Faculty Name and Research Interests. Includes professors like Masayuki Kato, Atsuhisa Shimazui, Yasumori Takahashi, and others.

Contents in Second Language Education

The Contents in Second Language Education course is aimed at training people who can take an active role in innovating language education by conducting research into the content and method of Applied Linguistics. In this course, we work with an academic base of linguistics (corpus linguistics, cognitive linguistics, pragmatics, communication analysis, speech sciences), grammar, education, educational sciences and class theory, and emphasize research with a focus on practical use in the field of education.

Students' research themes

Master's program: English intensifiers, English causative verbs, English causative expressions, First and third person German verbs, Japanese katekana, shadowing, phonics rules, Focus-on-form pronunciation aids, English-Japanese code-switching

Table with 2 columns: Faculty Name and Research Interests. Includes professors like Shin'ichiro Ishikawa, Hanami Kashiwaga, and others.

Advanced Communication (Joint Research Course in Doctoral Program)

The increasing problem of cultural friction as well as the matter of coexistence with robots, which is a concern we will face in the near future, is nothing if not a communication issue. What is human communication and what cultural differences does it reflect? What roles do languages, nonlinguistic actions, body language and paralinguistic play in communication? How can we make use of these in studying foreign languages? The Advanced Communication course is dedicated to using the latest technology to examine these issues, opening new possibilities for communication.

Students' research themes

Doctoral program: Effects of pronunciation training on foreign language learning, The role of presenting visualized articulatory gesture in English education

Table with 2 columns: Faculty Name and Research Interests. Includes professors like Akira Utsumi, Yukiko Nota, and others.

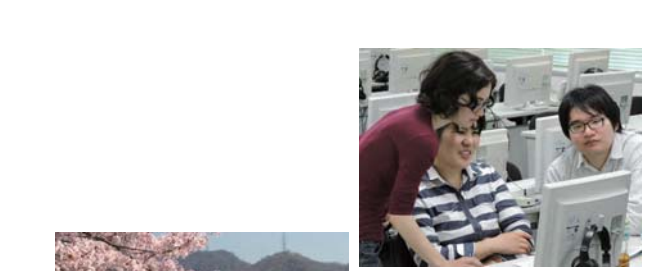
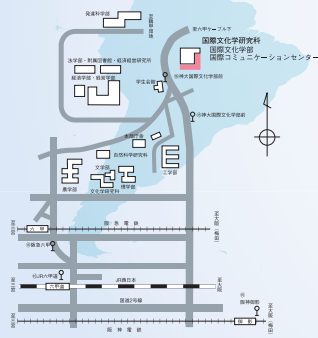
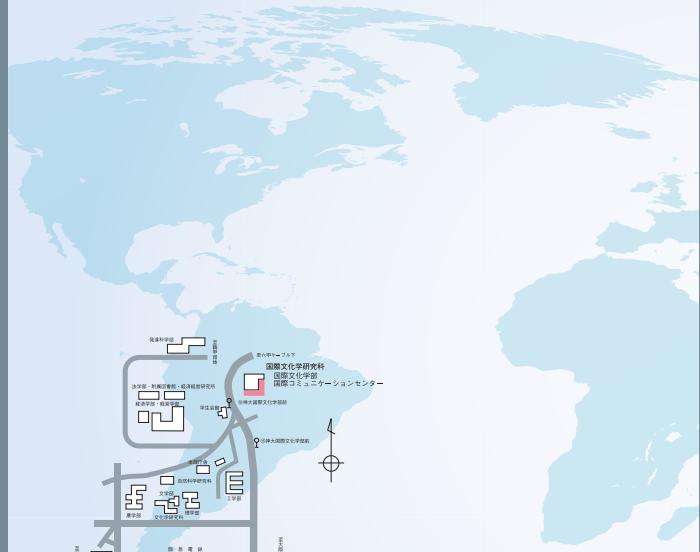


Table with 2 columns: Faculty Name and Research Interests. Includes professors like Shunryu Shi, Kazuhito Yamato, and others.



■交通機関
阪神「御影」・JR「六甲道」・阪急「六甲」から
神戸市営バス16系統「六甲ケーブル下」行き
「神戸国際文化学部前」下車



神戸大学大学院国際文化研究科
〒657-8501 神戸市灘区龍甲1-2-1
TEL(078)803-7530 FAX(078)803-7509
<http://web.cla.kobe-u.ac.jp>